

令和2年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査主体：文化庁国語課（一般社団法人中央調査社に業務委託）

調査目的：現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査時期：令和3年 3月4日～3月29日

調査対象：全国16歳以上の個人

調査対象総数	6,000	人	
有効回答数（率）	3,794	人	（ 63.2% ）

調査方法：郵送法

※ 令和2年度調査は、令和元年度以前の調査（調査員による面接聴取法）とは調査方法が異なるため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要である。

※ 郵送法による調査実施に当たり、調査票の表記について、漢字を仮名書きにしたり、振り仮名を付したりした箇所がある。本概要でも、基本的に調査票のとおり表記を用いている。



備考・百分比は各問いの回答者数を 100%として算出し、小数第2位を四捨五入したため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。内訳とその小計においても同様である。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数第1位を四捨五入して示した。

* 各質問の冒頭に示したページ数は報告書における該当する質問の記載ページである。

目 次

I 国語に対する認識

- <問1> 日本語を大切にしているか…………… 1
<問1付問1>日本語を大切にしていると思う理由…………… 3

II 生活の変化とコミュニケーションに関する意識

- <問2> マスクを着けると話し方や態度などが変わることがあると思うか…………… 6
<問2付問> マスクを着けると変わることがあると思う点…………… 7
<問3> 情報機器を使ったビデオ通話やウェブ会議等をしたことがあるか…………… 9
<問3付問1>ビデオ通話やウェブ会議等で気を付けていること…………… 10
<問4> 「コロナ禍」「クラスター」等の言葉の使われ方の印象…………… 12

III ローマ字表記に関する意識

- <問5> 長音のローマ字表記についての意見…………… 14
<問6> 地名のローマ字表記 (1)「神戸(こうべ)」「(2)「大阪(おおさか)」…………… 15

IV 言葉遣いに対する印象や、慣用句等の認識と使用

- <問7> 二つの言い方(「れる／られる」「せる／させる」「やる／あげる」等)…………… 17
<問8> 気になる言葉(「そっこう」「めっちゃ」等を使うことがあるか)…………… 21
<問9> 気になる言葉(「そっこう」「めっちゃ」等が気になるか)…………… 23
<問10> 「がぜん」「破天荒」等の言葉は、どちらの意味だと思うか…………… 25
<問11> 「寸暇を惜しまず／寸暇を惜しんで」等の言い方は、どちらを使うか…………… 27

V 平成22年の常用漢字表改定で追加された漢字の印象

- <問12> (平成22年の常用漢字表改定で追加された漢字を使った)
「曖昧」「比喻」等の漢字表記について、どのように感じるか…………… 29

I 国語に対する認識

* 報告書におけるページ数

<問1> 日本語を大切にしているか (* p.3)

— 「大切にしている(計)」は7割台半ばを占めている —

〔問1：質問〕

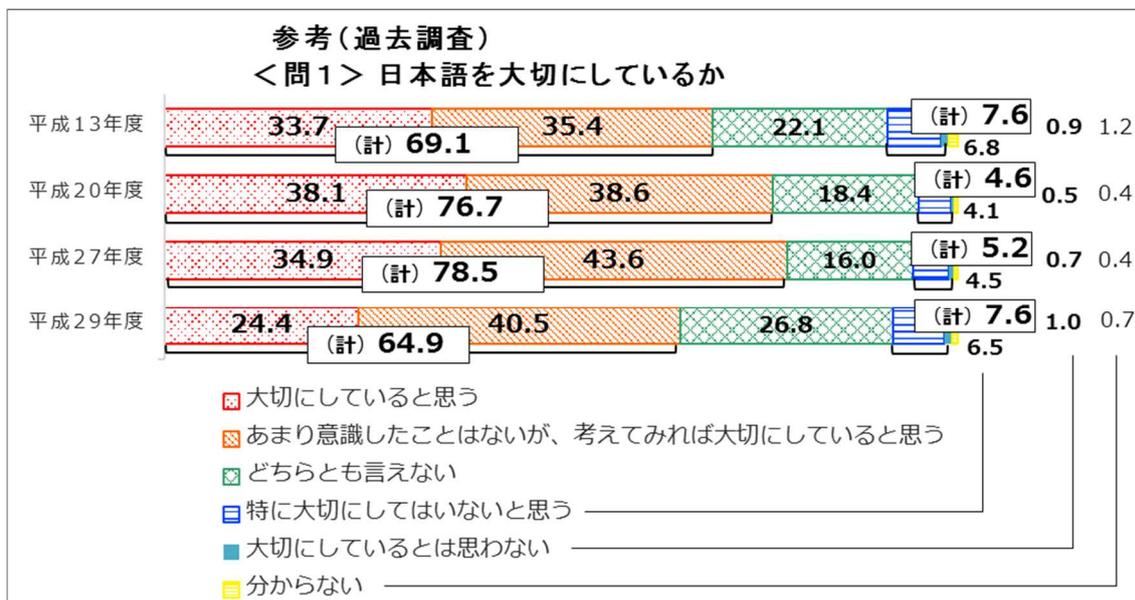
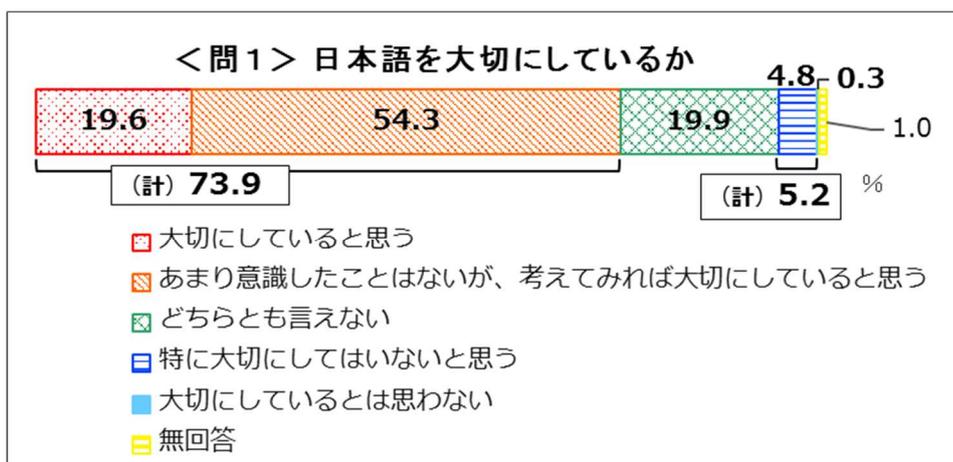
あなたは、毎日使っている日本語を大切にしていますか。それともそうはしていませんか。 (一つ回答)

〔問1：全体の結果、(参考)過去の調査結果〕

結果は次のグラフのとおり。

「大切にしていると思う」を選択した人の割合が 19.6%、「あまり意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」が 54.3%で、この二つを合わせた「大切にしている(計)」は 73.9%となっている。一方、「大切にしているとは思わない」は 0.3%、「特に大切にしてはいないと思う」は 4.8%で、この二つを合わせた「大切にしているとは思わない(計)」は 5.2%となっている。また、「どちらとも言えない」は 19.9%となっている。

また、調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要だが、過去の調査結果(平成13、20、27、29年度)を参考値として下のグラフに示す。

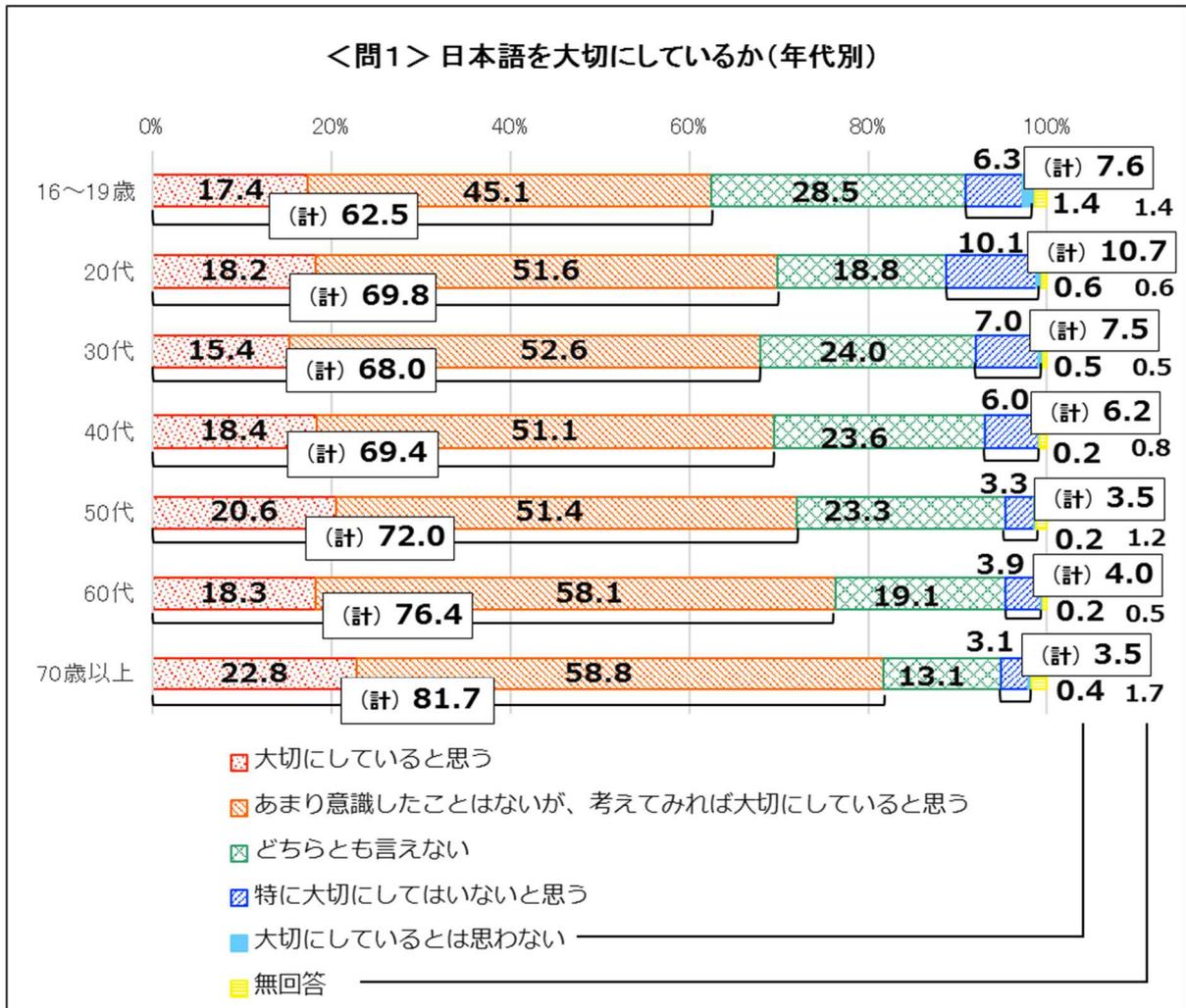


* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要

〔 問 1 : 年代別の結果 〕

年代別の結果は、次のグラフのとおり。

「大切にしている(計)」の割合は70歳以上で81.7%と、ほかの年代より高くなっている。



<問1付問1> 日本語を大切にしていると思う理由 (* p.5)

— 「日本語によって、ものを考えたり感じたり善悪の判断をしたりしているから」が5割台と最も高い —

〔 問 1 付 問 1 : 質 問 〕

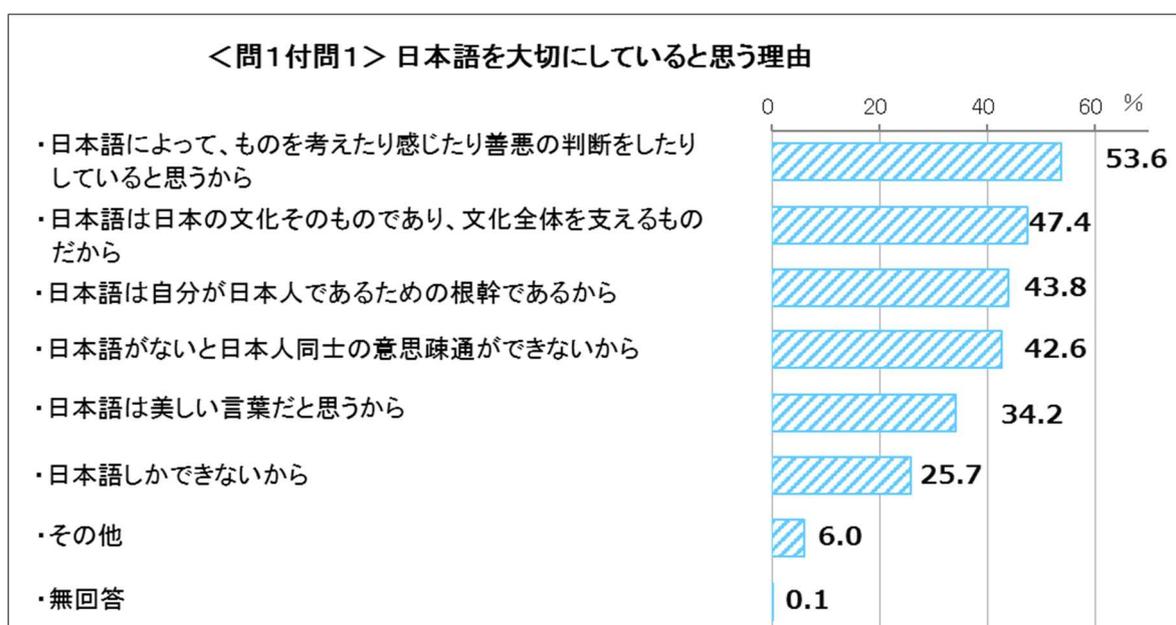
(問 1 で「大切にしていると思う」、「あまり意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」と答えた人(全体の 73.9%)に対して)

それほどの理由からですか。(三つまで回答)

〔 問 1 付 問 1 : 全 体 の 結 果 〕

結果は次のグラフのとおり。

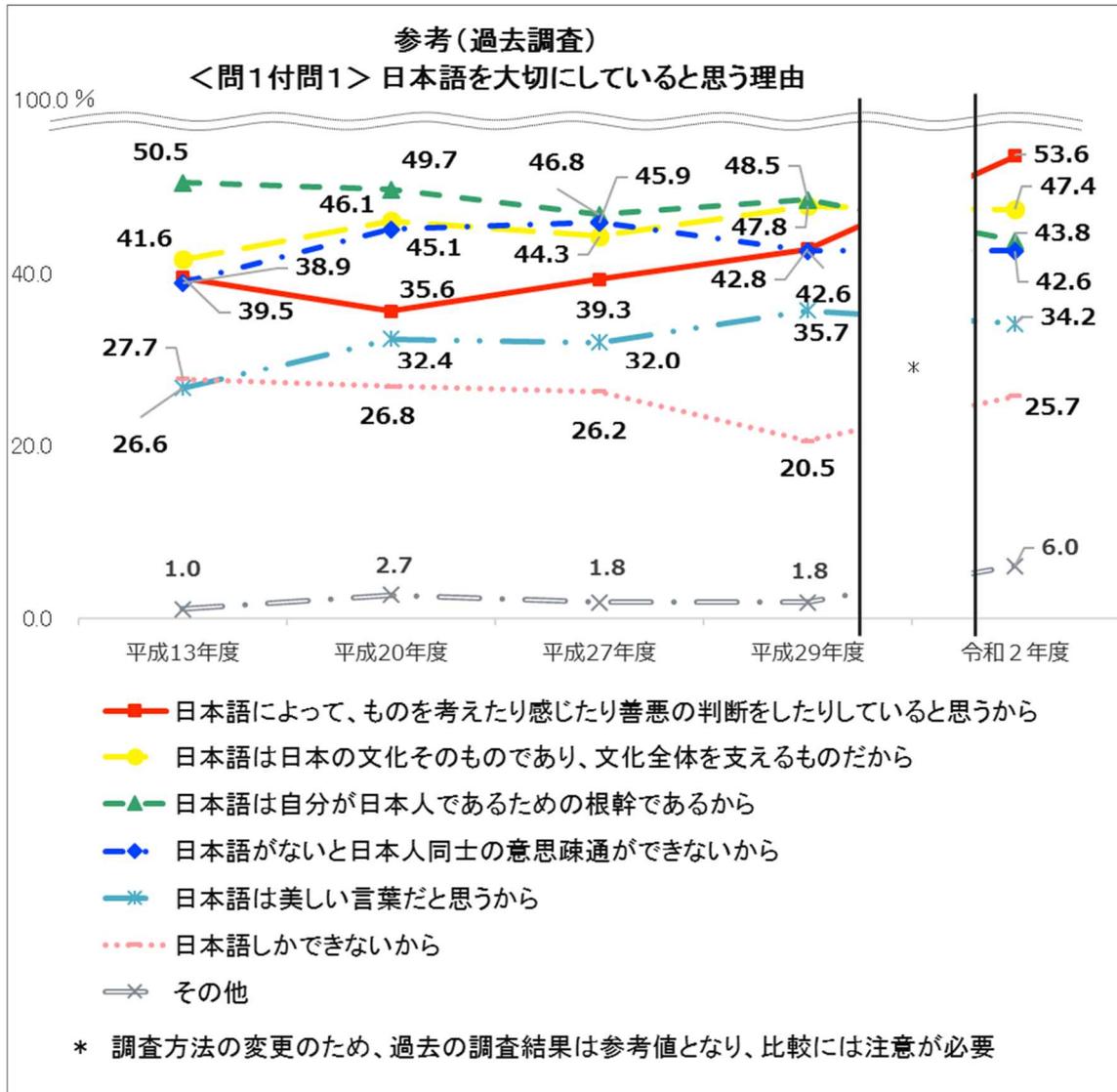
「日本語によって、ものを考えたり感じたり善悪の判断をしたりしていると思うから」(53.6%)の割合が他に比べて高く、5割を超えている。次いで「日本語は日本の文化そのものであり、文化全体を支えるものだから」(47.4%)、「日本語は自分が日本人であるための根幹であるから」(43.8%)、「日本語がないと日本人同士の意思疎通ができないから」(42.6%)が4割を超えている。



〔 問 1 付 問 1 : (参考) 過去の調査結果 〕

調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要だが、過去の調査結果(平成 13、20、27、29 年度)を参考値として次のグラフに示す。

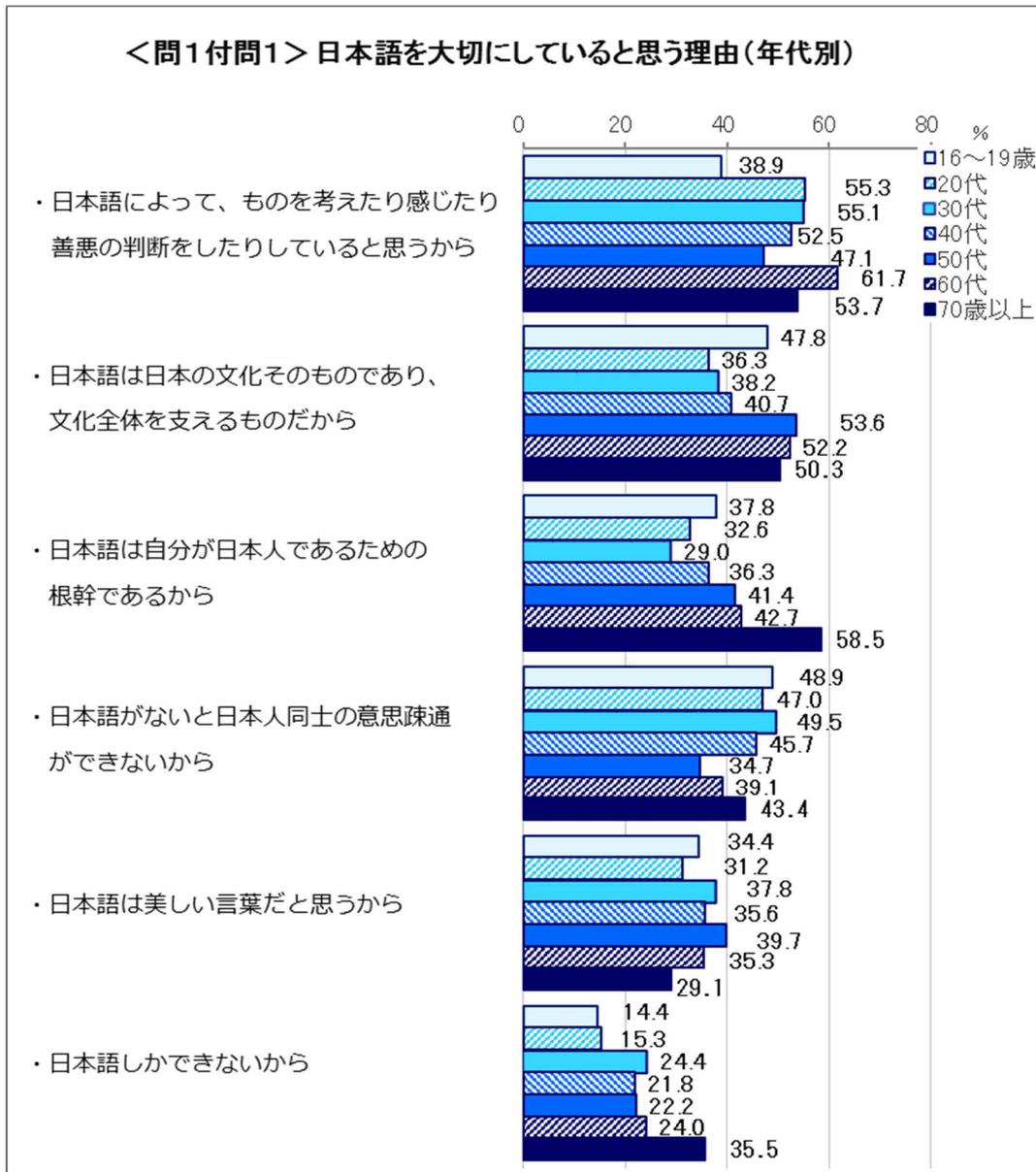
今回調査で選択している人の割合が最も高い「日本語によって、ものを考えたり感じたり善悪の判断をしたりしていると思うから」は、平成 20 年度以降、増加傾向にあった。



〔 問 1 付問 1 : 年代別の結果 〕

年代別に見ると、次のグラフのとおり。

「日本語によって、ものを考えたり感じたり善悪の判断をしたりしていると思うから」は、60代で61.7%と、ほかの年代より高くなっている。一方、16～19歳で38.9%とほかの年代より低くなっている。「日本語は日本の文化そのものであり、文化全体を支えるものだから」は、50代以上が5割台と、ほかの年代より高くなっている。また、70歳以上で「日本語は自分が日本人であるための根幹であるから」が58.5%、「日本語しかできないから」が35.5%と、ほかの年代より高くなっている。



Ⅱ 生活の変化とコミュニケーションに関する意識

＜問2＞ マスクを着けると話し方や態度などが変わることがあると思うか (* p.10)

— 「変わることがあると思う」を選択した人は6割前半 —

〔問2：質問〕

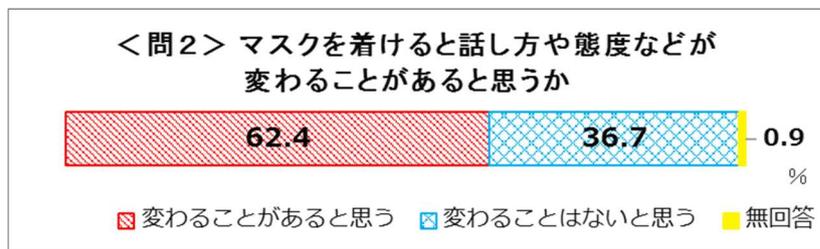
【新型コロナウイルス感染症に関連して】

自分も相手もマスクを着けている状態で会話をするときに、マスクを着けていないときと比べて話し方や態度などが変わることがあると思いますか。それとも、ないと思いますか。

〔問2：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。

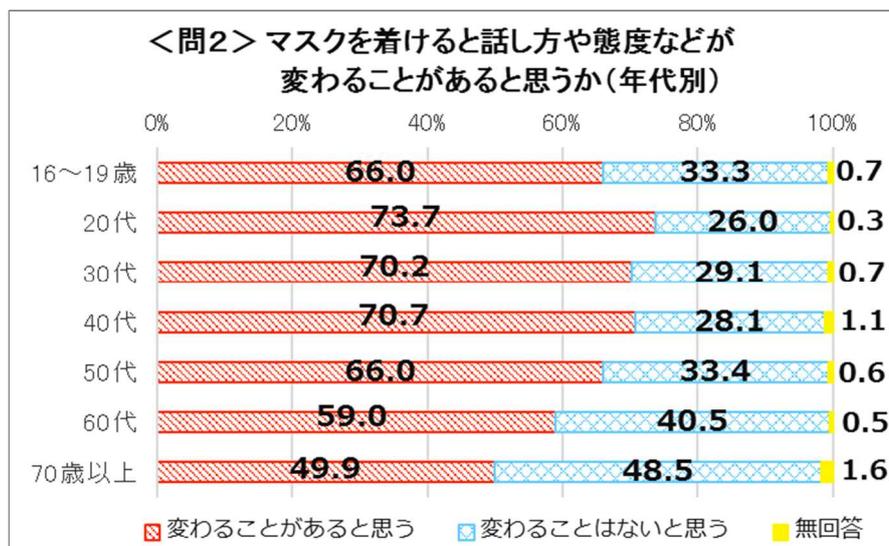
「変わることがあると思う」は62.4%となっている一方、「変わることはないと思う」は36.7%となっている。



〔問2：年代別の結果〕

年代別に見ると、次のグラフのとおり。

「変わることがあると思う」は、20代から40代が7割前半と高くなっている。一方、70歳以上は49.9%と、ほかの年代より低くなっている。



＜問2付問＞ マスクを着けると変わることがあると思う点（* p.10・13）

— 「声の大きさに気を付ける」が7割台半ば、「はっきりとした発音で話す」が5割台後半と高い —

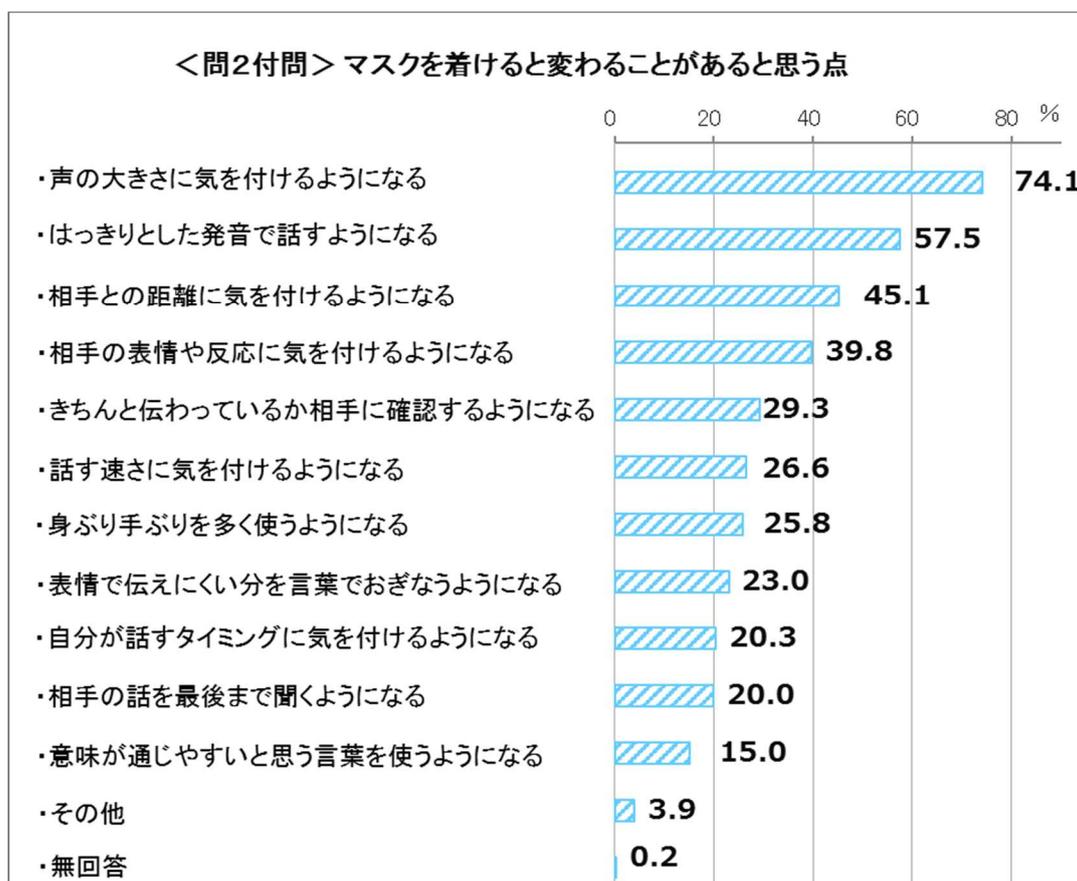
〔問2付問：質問〕

（問2で「変わることがあると思う」と答えた人（全体の62.4%）に対して）
どのような点で変わることがあると思いますか。（幾つでも回答）

〔問2付問：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

「声の大きさに気を付けるようになる」が74.1%と最も高く、次いで「はっきりとした発音で話すようになる」(57.5%)、「相手との距離に気を付けるようになる」(45.1%)、「相手の表情や反応に気を付けるようになる」(39.8%)となっている。



〔 問2付問：年代別の結果 〕

年代別に見ると、次のグラフのとおり。

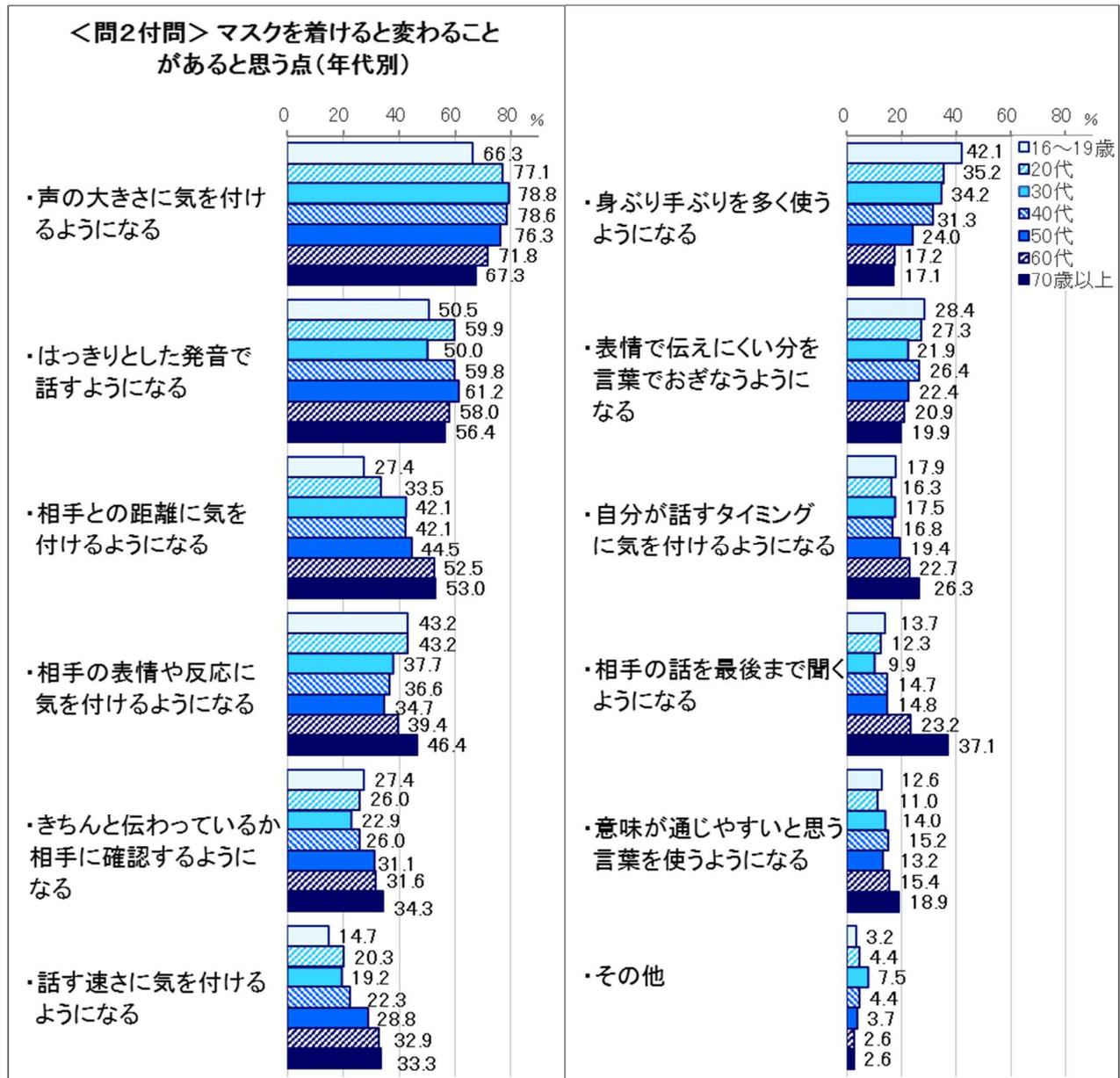
「声の大きさに気を付けるようになる」は、16～19歳(66.3%)と70歳以上(67.3%)で6割台後半と、ほかの年代より低くなっている。

「はっきりとした発音で話すようになる」は、全ての年代で5割を超えている。

「相手との距離に気を付けるようになる」は、年代が上がるほど高くなり、70歳以上で53.0%となっている。

「身ぶり手ぶりを多く使うようになる」は、年代が下がるほど高くなり、16～19歳で42.1%となっている。

「相手の話を最後まで聞くようになる」は、70歳以上で37.1%と、ほかの年代より高くなっている。



＜問3＞ 情報機器を使ったビデオ通話やウェブ会議等をしたことがあるか (* p.15)

— 「ある」は4割台半ば —

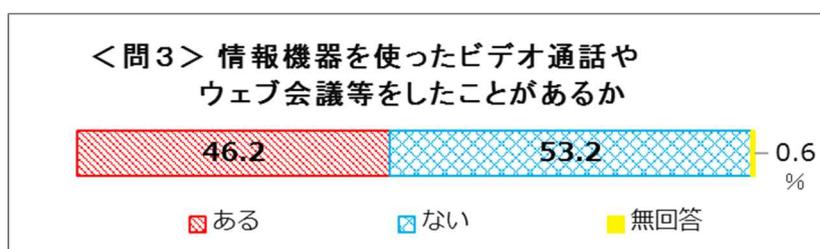
〔問3：質問〕

パソコン(タブレット端末含む。)やスマートフォンなどの機器を使い、ビデオ通話(テレビ電話)をしたり、ウェブ会議(テレビ会議)、オンライン授業(リモート授業)に参加したりしたことがありますか。それとも、ありませんか。

〔問3：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。

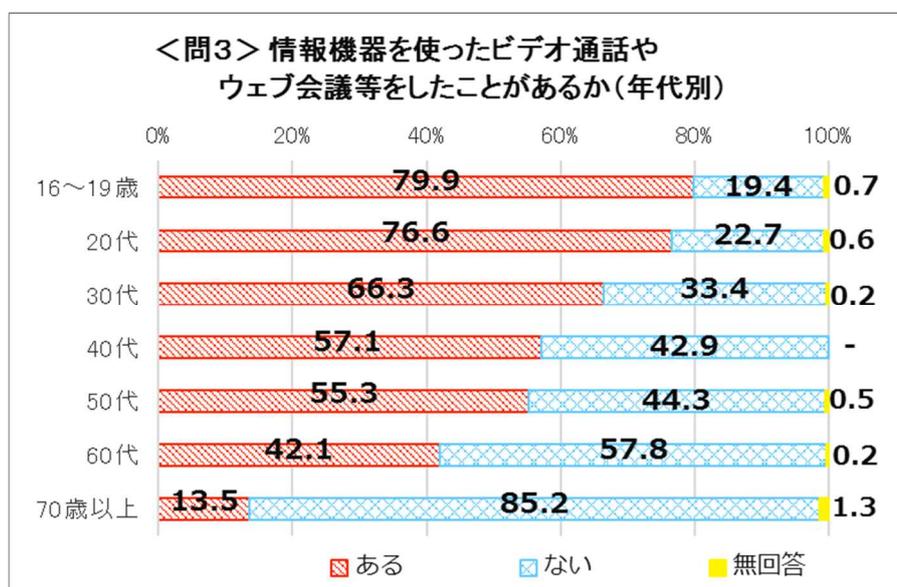
「ある」が46.2%、「ない」が53.2%となっている。



〔問3：年代別の結果〕

年代別に見ると、次のグラフのとおり。

年代が下がるに従って、情報機器を使ったビデオ通話やウェブ会議等をしたことが「ある」と回答した人の割合が高くなり、16～19歳で79.9%となっている。一方、「ない」の割合は、年代が上がるに従って高くなり、70歳以上で85.2%となっている。



<問3付問1> ビデオ通話やウェブ会議等で気を付けていること (* p.17)

— 「自分が話すタイミングに気を付けるようにしている」が5割台後半と最も高い —

〔 問3付問1 : 質問 〕

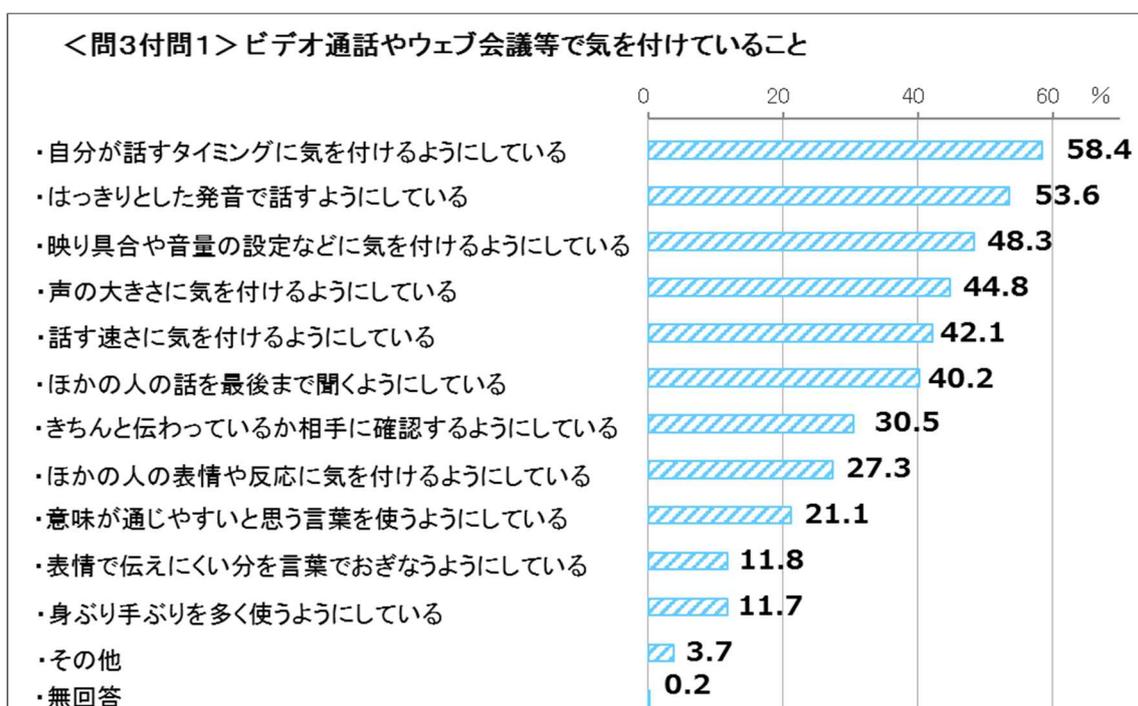
(問3で「ある」と答えた人(全体の46.2%)に対して)

ビデオ通話(テレビ電話)や、ウェブ会議(テレビ会議)、オンライン授業(リモート授業)で、あなたが気を付けていることは何ですか。(幾つでも回答)

〔 問3付問1 : 全体の結果 〕

結果は次のグラフのとおり。

「自分が話すタイミングに気を付けるようにしている」が58.4%と最も高く、次いで「はっきりとした発音で話すようにしている」(53.6%)、「映り具合や音量の設定などに気を付けるようにしている」(48.3%)となっている。



〔 問3付問1 : 問2付問「マスクを着けると変わることがあると思う点」との比較 〕

選択肢の内容が似ている問2付問「マスクを着けると変わることがあると思う点」(7ページ)と問3付問1「ビデオ通話やウェブ会議等で気を付けていること」の結果について比較する。

問2付問では「声の大きさに気を付けるようになる」を選択した人の割合が最も高く、74.1%となっている一方、問3付問1では「声の大きさに気を付けるようにしている」は44.8%で4番目に高くなっている。

問3付問1では「自分が話すタイミングに気を付けるようにしている」を選択した人の割合が最も高く、58.4%となっている一方、問2付問では「自分が話すタイミングに気を付けるようになる」は20.3%で9番目に高くなっている。

問2付問「はっきりとした発音で話すようになる」(57.5%)、問3付問1「はっきりとした発音で話すようにしている」(53.6%)は、どちらの質問でも2番目に高くなっている。

対応する項目がもう一方の問いにはない問2付問「相手との距離に気を付けるようになる」(45.1%)と、問3付問1「映り具合や音量の設定などに気を付けるようにしている」(48.3%)は、どちらの質問でも3番目に高くなっている。

【 問3付問1：年代別の結果 】

年代別に見ると、次のグラフのとおり。

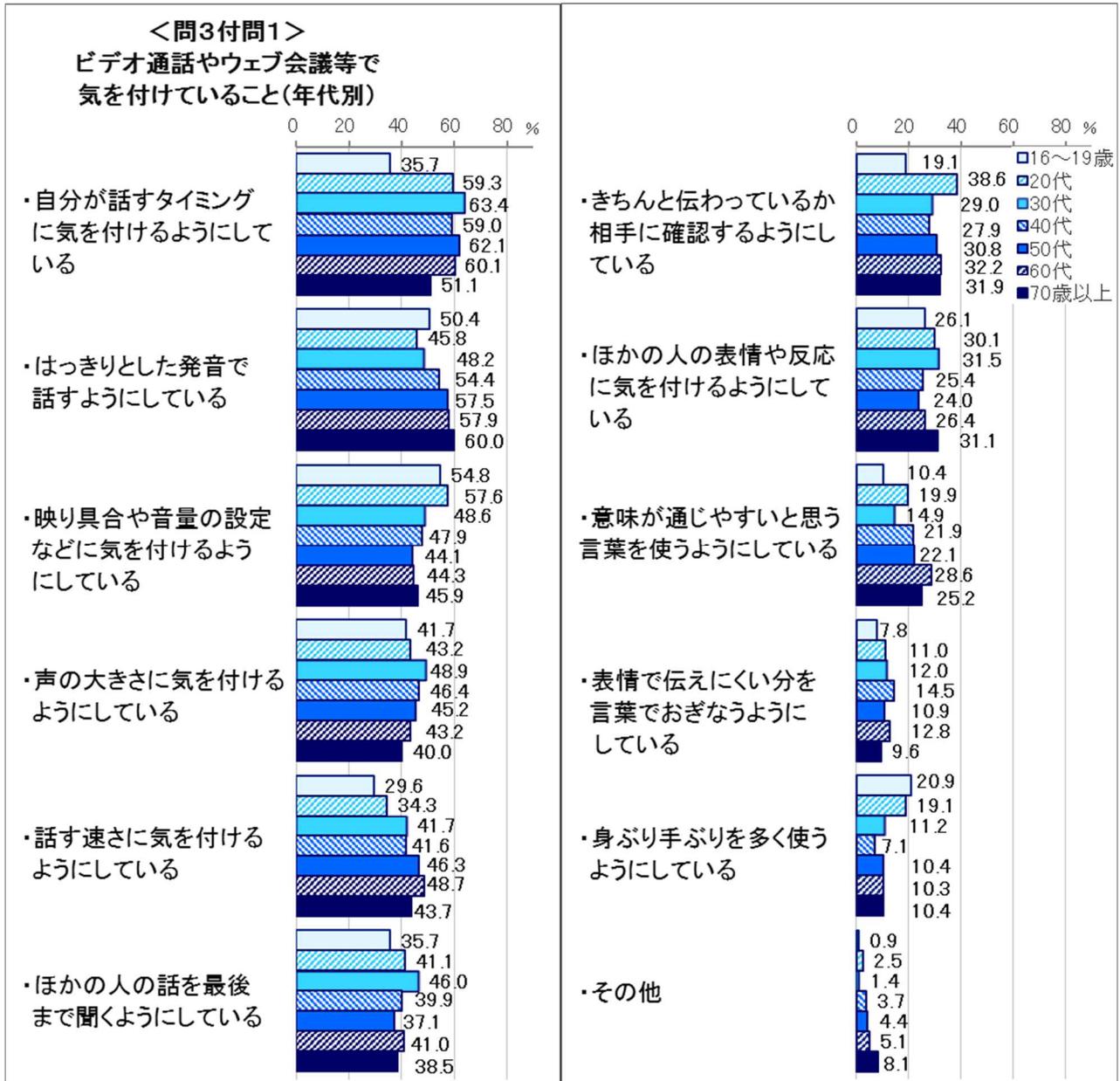
「自分が話すタイミングに気を付けるようにしている」は、16～19歳が35.7%と、ほかの年代より低くなっている。

「はっきりとした発音で話すようにしている」は、20代が45.8%と、ほかの年代より低くなっている。

「映り具合や音量の設定などに気を付けるようにしている」は、20代以下が5割台と、ほかの年代より高くなっている。

「話す速さに気を付けるようにしている」は、70歳以上を除き、年代が上がるに従って高くなる傾向が見られる。

「きちんと伝わっているか相手に確認するようにしている」は、20代で38.6%と、ほかの年代より高くなっている。一方、16～19歳が19.1%と、ほかの年代より低くなっている。



＜問4＞ 「コロナ禍」「クラスター」等の言葉の使われ方の印象 (* p.22)

— 「コロナ禍」「不要不急」は「この言葉をそのまま使うのがいい」が6割台後半と高い —

〔 問4：質問 〕

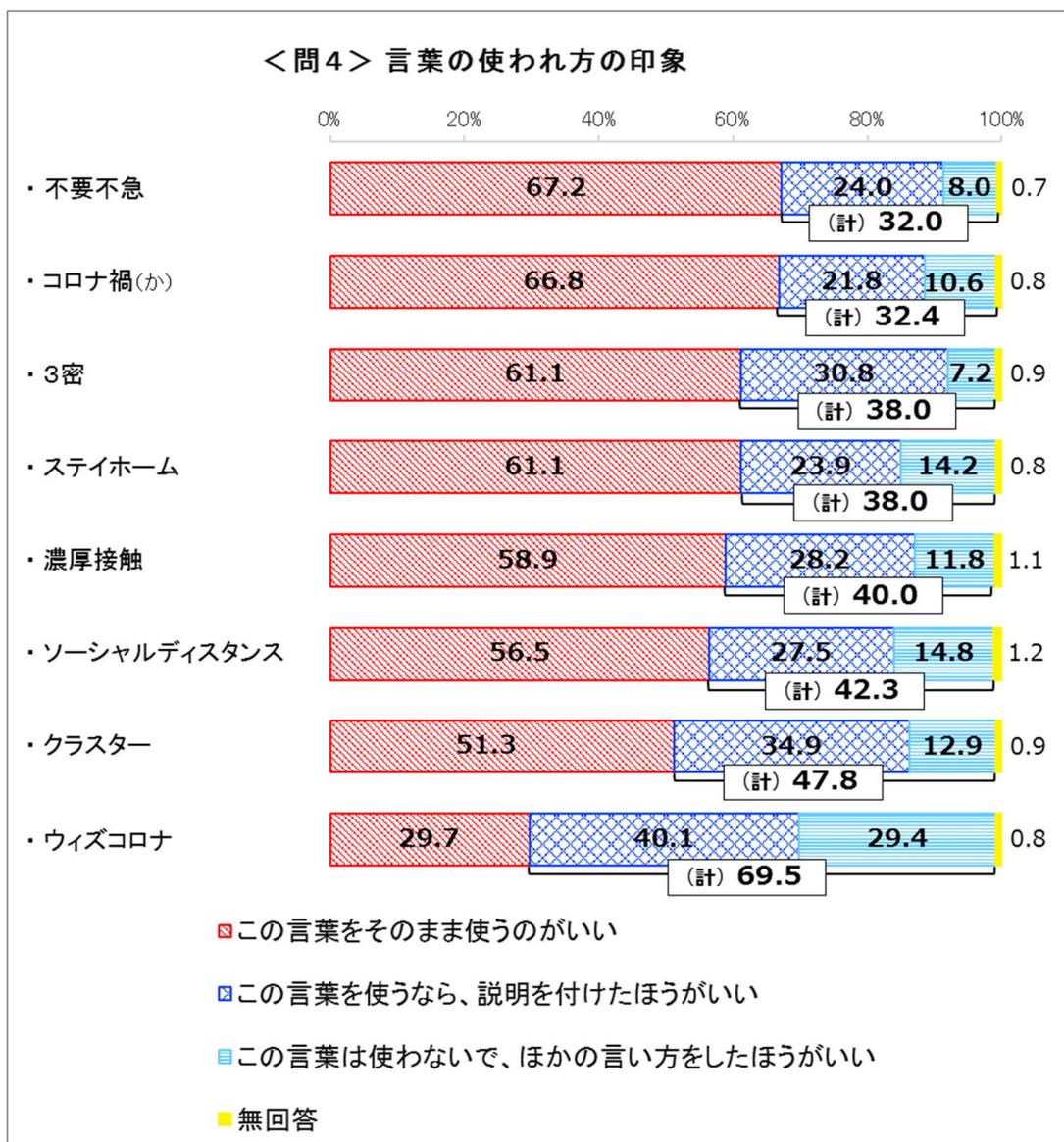
ここに挙げた(1)～(8)の言葉の使われ方について、どのように思いますか。 (一つずつ回答)

- (1) コロナ禍^か (2) ソーシャルディスタンス (3) 3密 (4) 濃厚接触
 (5) クラスター (6) 不要不急 (7) ステイホーム (8) ウィズコロナ

〔 問4：全体の結果 〕

結果は次のグラフのとおり。

「ウィズコロナ」を除く全てで、「この言葉をそのまま使うのがいい」が5割を超え、中でも「コロナ禍」(66.8%)、「不要不急」(67.2%)では6割台後半となっている。一方、「ウィズコロナ」は、「この言葉を使うなら、説明を付けたほうがいい」(40.1%)と「この言葉は使わないで、ほかの言い方をしたほうがいい」(29.4%)を合わせた「この言葉をそのまま使わないほうがいい(計)」が69.5%となっている。



〔 問 4 : 年代別の結果 〕

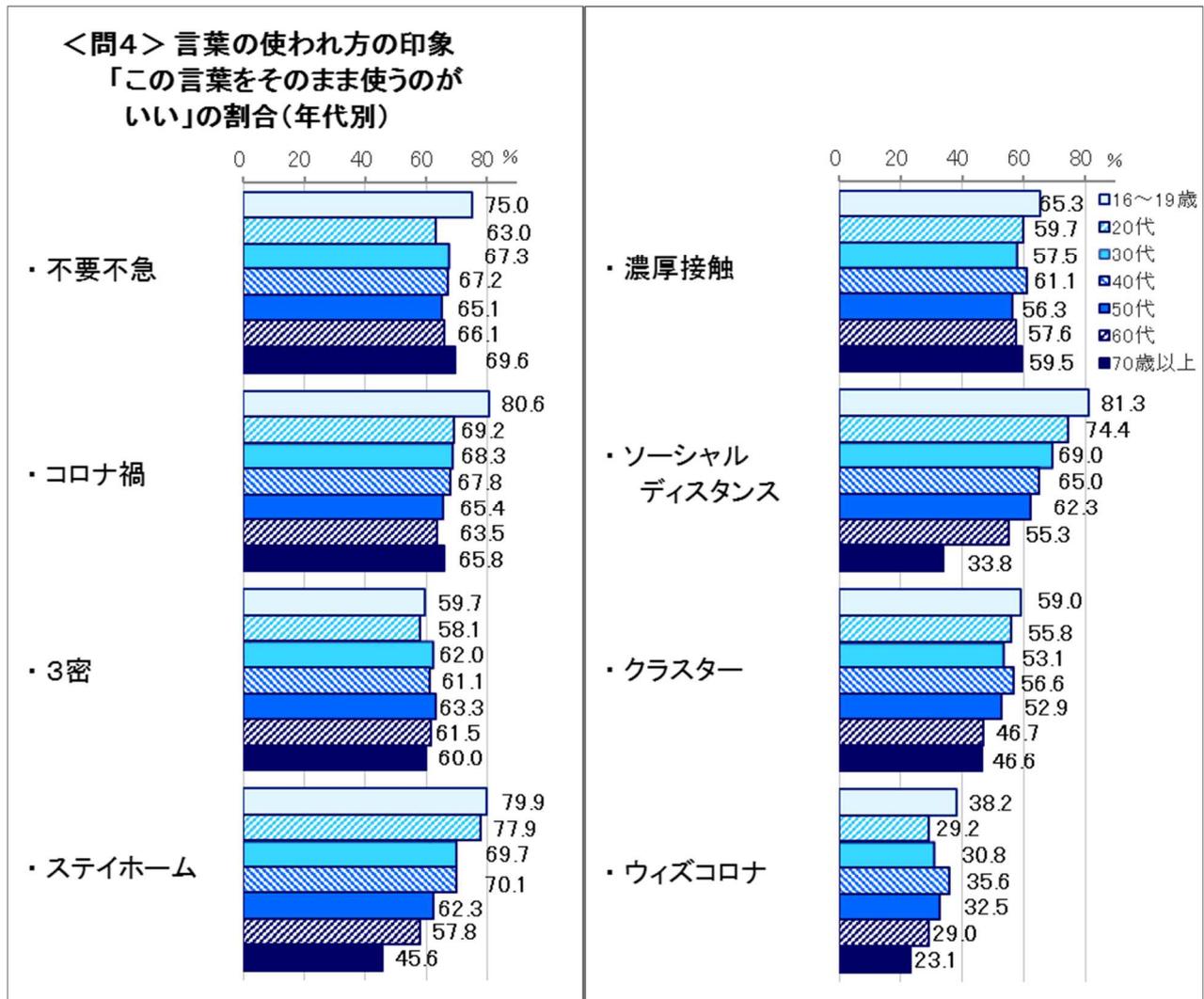
「この言葉をそのまま使うのがいい」を選択した人の割合を年代別に見ると、次のグラフのとおり。

「コロナ禍」は、16～19 歳で 80.6%と、ほかの年代より高くなっている。

「ステイホーム」、「ソーシャルディスタンス」では、年代間の差が大きく、「ステイホーム」は 16～19 歳が 79.9%、70 歳以上が 45.6%で 34 ポイント、「ソーシャルディスタンス」は 16～19 歳が 81.3%、70 歳以上が 33.8%で 48 ポイントの差がある。

「ウィズコロナ」は、16～19 歳が 38.2%と、ほかの年代より高くなっている。一方、70 歳以上が 23.1%と、ほかの年代より低くなっている。

「ステイホーム」「ソーシャルディスタンス」「クラスター」「ウィズコロナ」については、「この言葉をそのまま使うのがいい」を選択した人の割合は、おおむね年齢が上がるに従って低くなる傾向が見られる。



Ⅲ ローマ字表記に関する意識

<問5>長音のローマ字表記についての意見 (* p.27)

— 「きちんと区別が付く方法を考えたほうが良い」が7割台半ば —

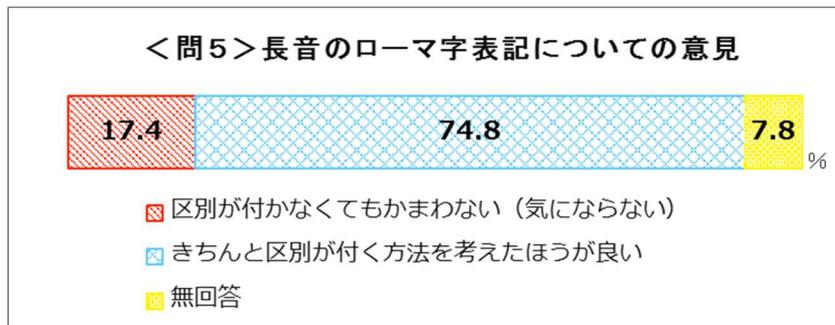
〔問5：質問〕

人の名字の「小野」と「大野」をローマ字で書く場合、両方とも「Ono」となって区別がなくなることがあります。このことについて、あなたの意見は次のどちらに近いですか。（一つ回答）

〔問5：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

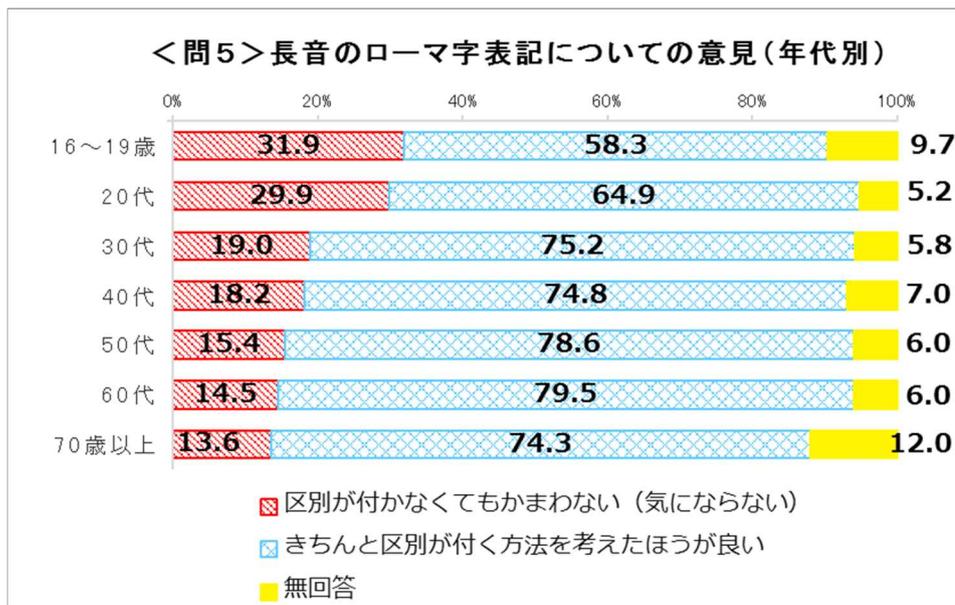
「区別が付かなくてもかまわない(気にならない)」が 17.4%となっている一方、「きちんと区別が付く方法を考えたほうが良い」が 74.8%となっている。



〔問5：年代別の結果〕

年代別に見ると、次のグラフのとおり。

「区別が付かなくてもかまわない(気にならない)」は、20代以下の年代で約3割と高くなっている。



＜問6＞地名のローマ字表記(1)「神戸(こうべ)」、(2)「大阪(おおさか)」 (* p.29)

— 「Kōbe」、「Ōsaka」がそれぞれ5割台と最も高い —

〔問6：質問〕

次の(1)と(2)の地名をローマ字で表す場合、ここに挙げた中ではどの書き方が読みやすいと思いますか。

(一つずつ回答)

(1)神戸(こうべ) (2)大阪(おおさか)

〔問6：全体の結果・(参考)過去の調査結果〕

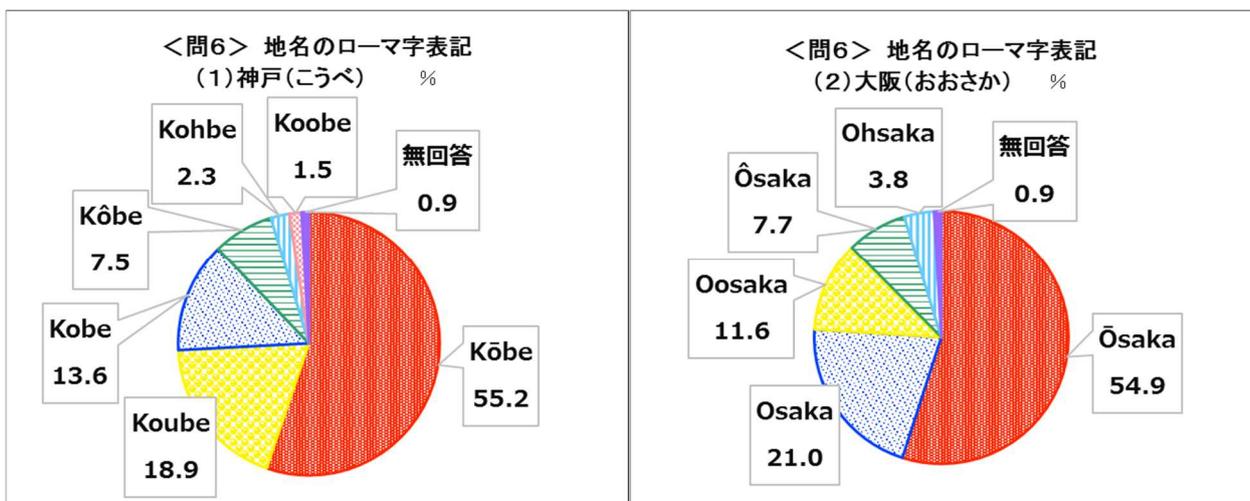
結果はそれぞれ次のグラフのとおり。また、調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要だが、過去の調査結果(平成22年度)を参考値として次のグラフに示す。なお、過去の調査では、今回調査にない項目である「どれが読みやすいとも言えない」がある。

(1)「神戸(こうべ)」

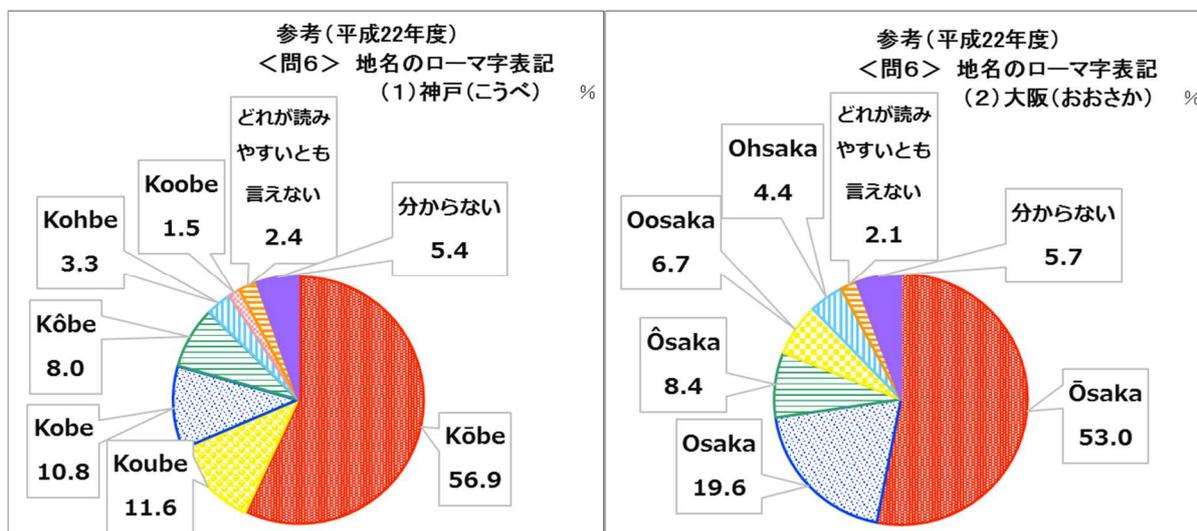
「Kōbe」(55.2%)の割合が他に比べて高く、5割を超えている。次いで「Koube」(18.9%)、「Kobe」(13.6%)、「Kōbe」(7.5%)となっている。

(2)「大阪(おおさか)」

「Ōsaka」(54.9%)の割合が他に比べて高く、5割を超えている。次いで「Osaka」(21.0%)、「Oosaka」(11.6%)、「Ōsaka」(7.7%)となっている。



* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要



〔 問6：年代別の結果 〕

年代別に見ると、それぞれ次のグラフのとおり。

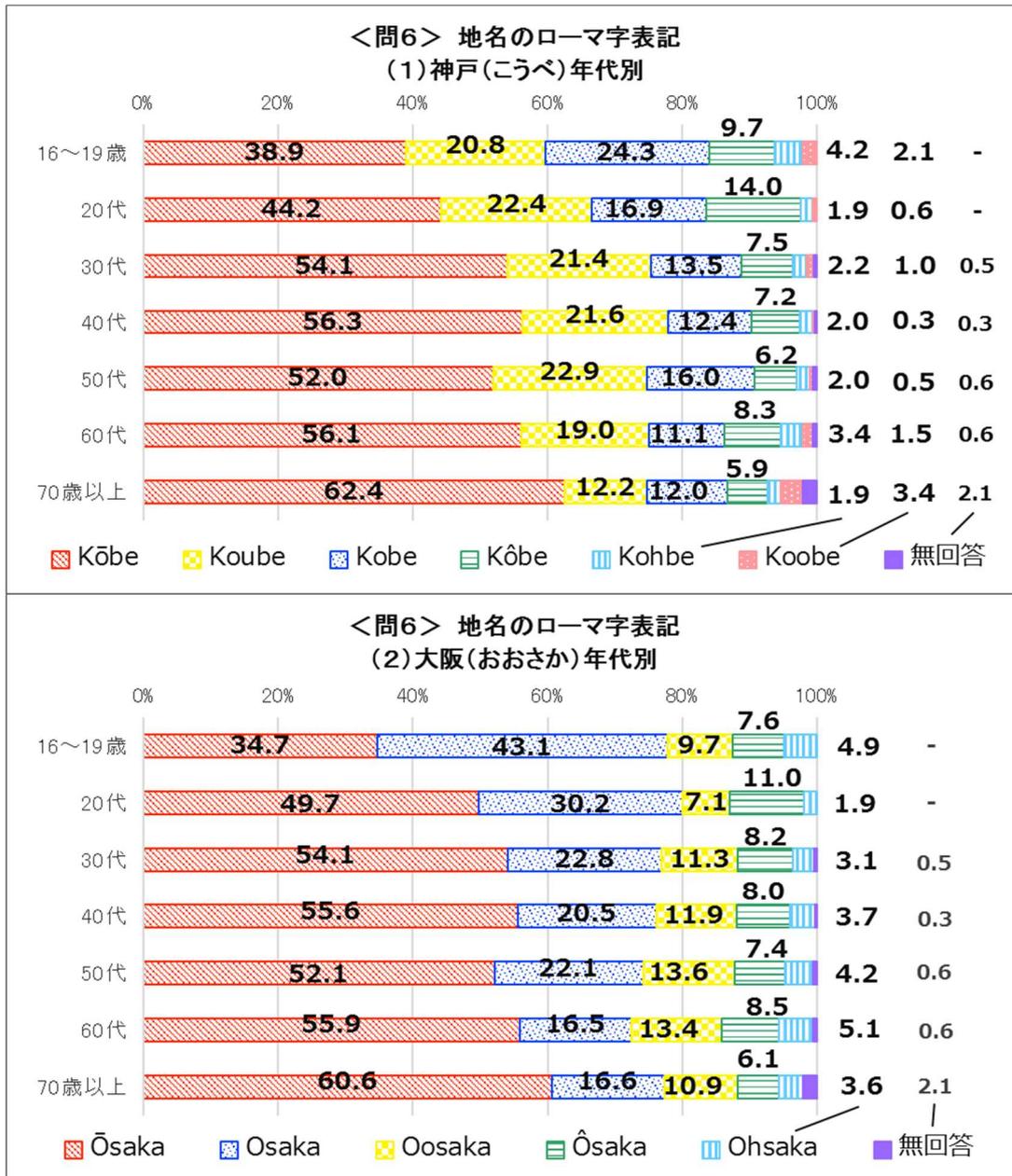
(1)「神戸(こうべ)」

「Kōbe」を選択した人の割合は、おおむね年齢が上がるに従って高くなる傾向が見られる。

「Koube」は、70歳以上で12.2%と、ほかの年代より低くなっている。また、「Kobe」は、16～19歳で24.3%と、ほかの年代より高くなっている。

(2)「大阪(おおさか)」

16～19歳では、「Ōsaka」が34.7%と、ほかの年代より低くなっている。一方、「Osaka」が43.1%と、ほかの年代より高くなっている。



IV 言葉遣いに対する印象や、慣用句等の認識と使用

<問7>二つの言い方(「れる／られる」「せる／させる」「やる／あげる」等) (* p.32)

— 「来れる」「見れる」を使う人の割合が5割を超えている —

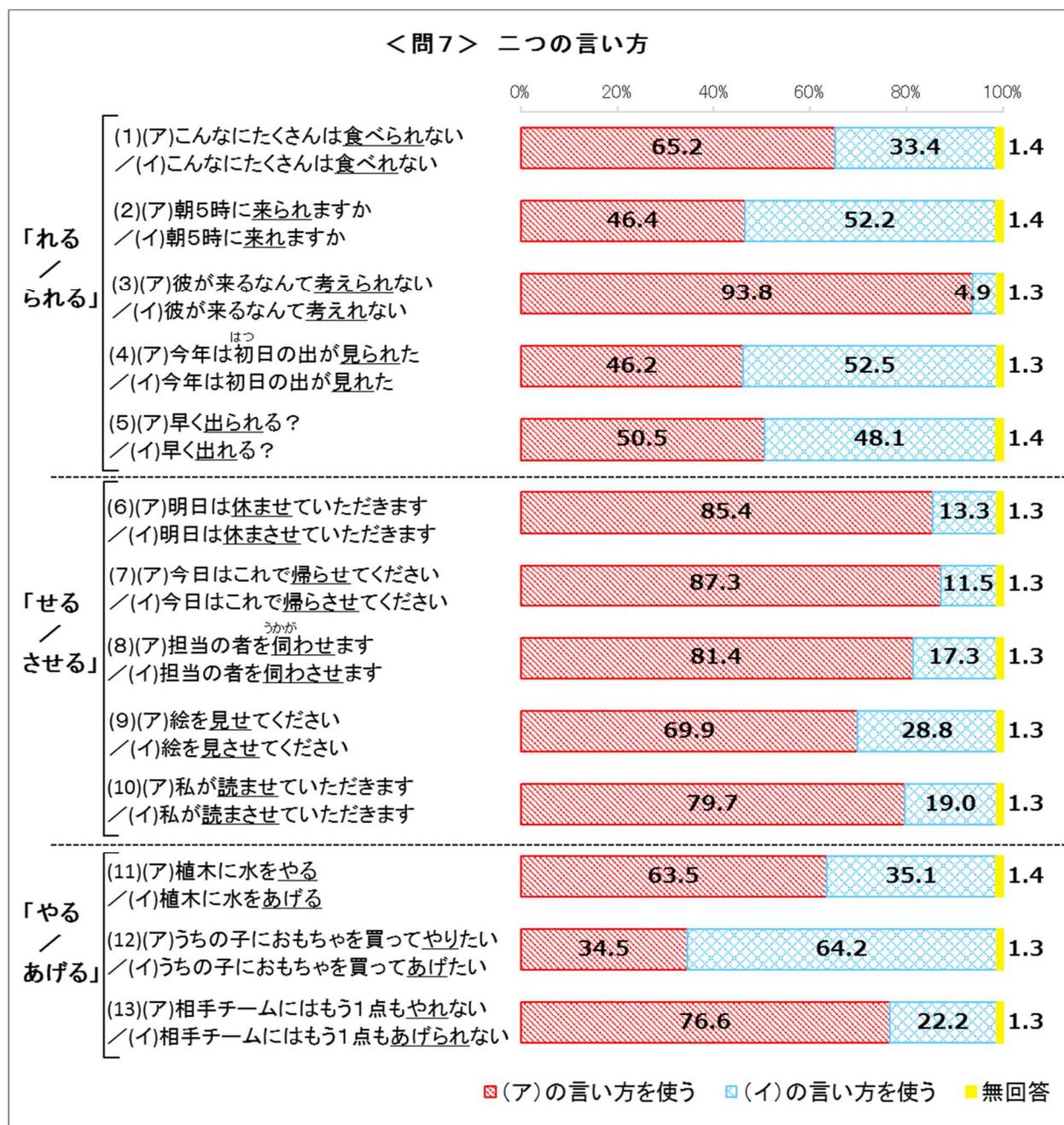
〔問7：質問〕

次の(1)～(13)それぞれに挙げた二つの言い方のうち、あなたが普通使うものはどちらですか。

(一つずつ回答)

〔問7：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。



このうち、(1)～(5)は「れる／られる」が後に続く言い方について尋ねたものである。なお、「食べれない」、「来れますか」、「考えれない」、「見れた」、「出れる?」は、共通語においては改まった場で用いるのは適当ではないとされてきており、新聞などでもほとんど用いられていない。これらは、上一段活用、下一段活用、カ行変格活用の動詞の可能表現である。この場合、辞書等では、動詞の未然形に可能の助動詞「られる」が付いた「見られる」「出られる」「来られる」などが本来の形であり、「見れる」「出れる」「来れる」などの形は、五段活用動詞(「読む」「書く」など)から生じる下一段活用の可能動詞(「読める」「書ける」など)などの影響によるものと考えられるとされている。

(6)～(10)は「せる／させる」が後に続く言い方について尋ねたものである。「休ませさせていただきます」、「帰らさせていただきます」、「伺わさせます」、「読ませさせていただきます」の四つの言い方は、共通語においては適当ではないとされており、新聞などでもほとんど用いられていない。これらは、五段活用の動詞の使役表現である。この場合、辞書等では、動詞の未然形に使役の助動詞「せる」が付いた「休ませる」「帰らせる」などが本来の形であるとされている。

ただし、(9)で取り上げた、「見せてください／見させていただきます」は、どちらも文法的には問題のない表現である。「見せてください」は、下一段活用の動詞「見せる」の連用形に接続助詞「て」と「ください」が付いた形、「見させていただきます」は、上一段活用の動詞「見る」の未然形に、使役の助動詞「させる」と「て」と「ください」が付いた形である。

(11)～(13)は「やる／あげる」について尋ねたものである。(11)の文について、「敬語の指針」(平成 19 年文化審議会答申)では、「植木に水をあげる」という場合の「あげる」は、旧来の規範からすれば誤用とされるものであるが、この語の謙譲語から美化語に向かう意味的な変化は既に進行し、定着しつつあると言ってよい。」としている。(12)(13)についても同様に考えられる。

〔問4：年代別の結果・(参考)過去の調査結果〕

年代別に見ると、それぞれ次のグラフのとおり。

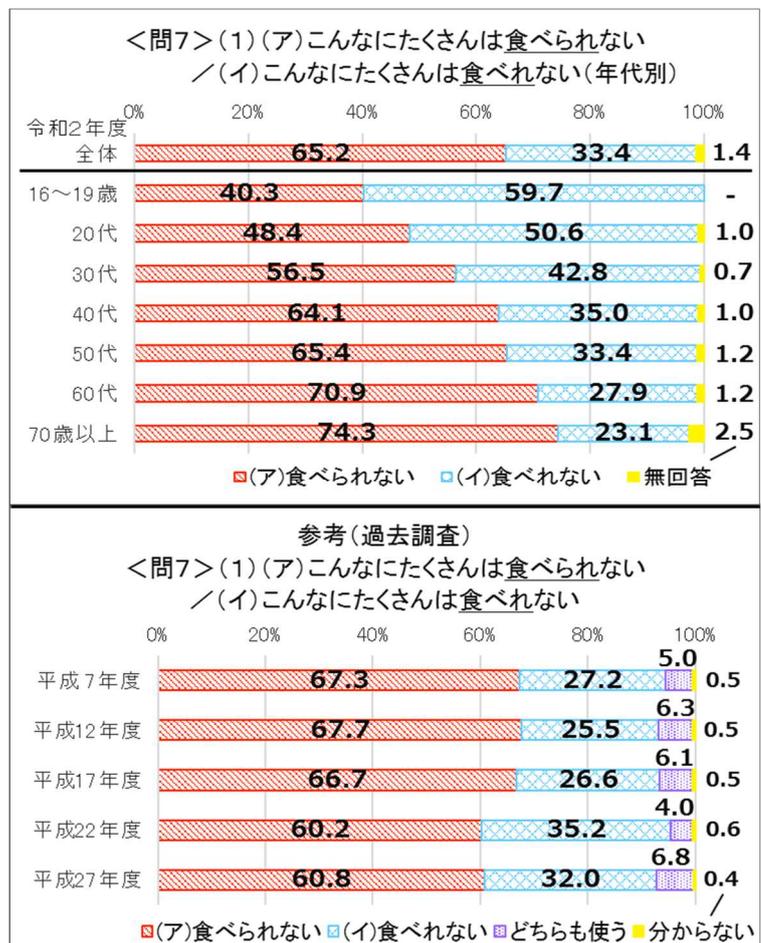
また、調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要だが、過去の調査結果(平成7、12、17、22、27年度)を参考値として、それぞれグラフに示す。なお、過去の調査では、今回調査にない項目である「どちらも使う」がある。

(1) (ア)こんなにたくさんは食べられない
 ／(イ)こんなにたくさんは食べれない

年代が上がるに従って、「(ア)こんなにたくさんは食べられない」を選択する人の割合が高くなり、70歳以上では74.3%となっている。一方、20代以下では、「(イ)こんなにたくさんは食べれない」の割合が半数を超えている。

過去の調査結果を見ると、平成12年度から22年度にかけて、「(イ)こんなにたくさんは食べれない」の割合が増加傾向にあった。

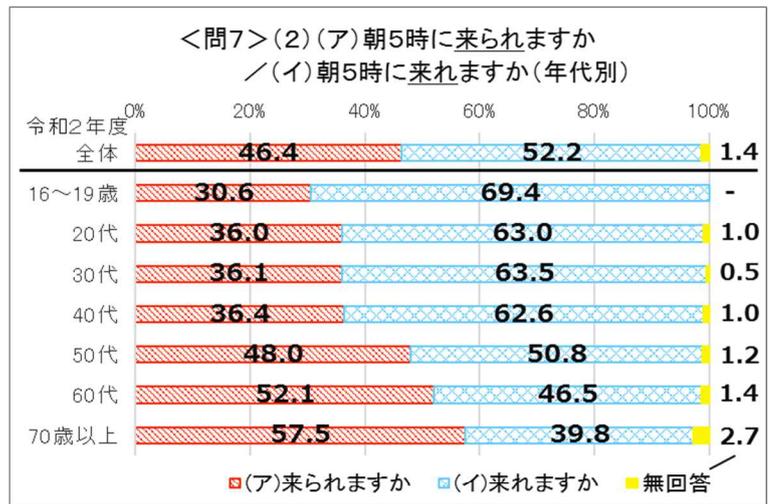
* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要



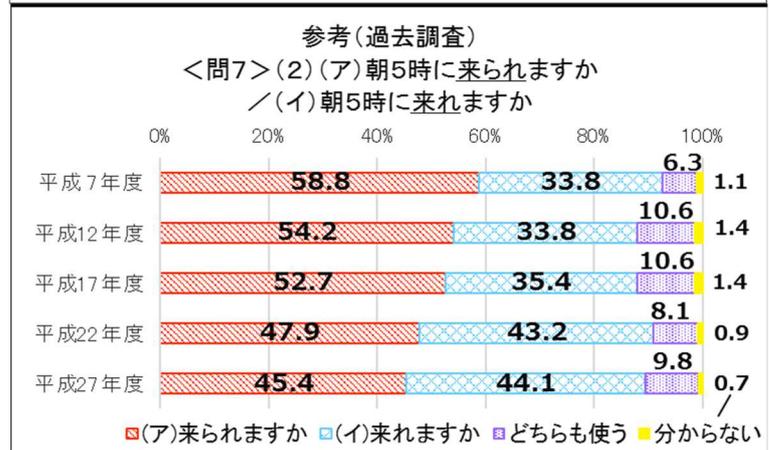
(2) (ア)朝5時に来られますか
 / (イ)朝5時に来れますか

50代以下では、「(イ)朝5時に来れますか」が半数を超え、中でも16～19歳では69.4%と最も高くなっている。

過去の調査結果を見ると、これまで「(イ)朝5時に来れますか」の割合が増加傾向にあった。



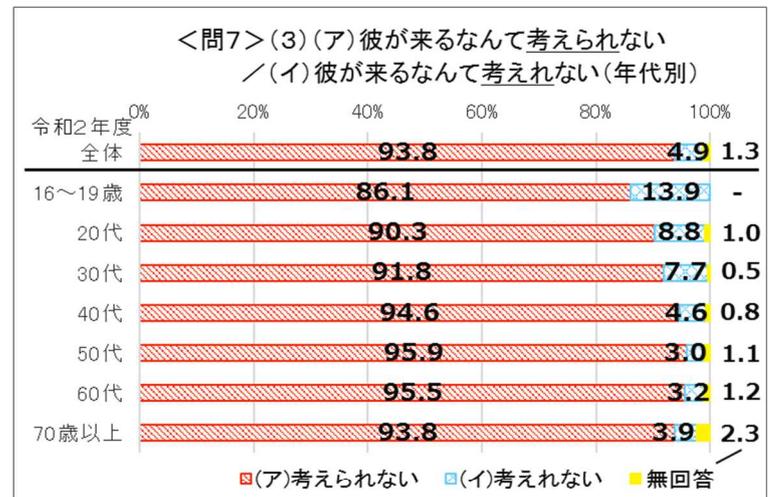
* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要



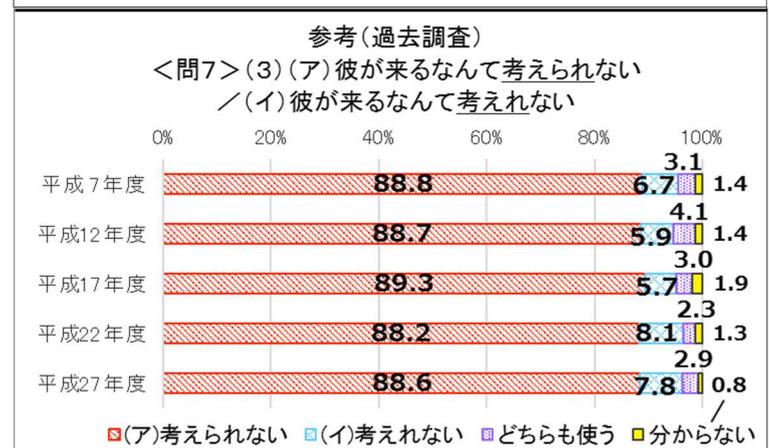
(3) (ア)彼が来るなんて考えられない
 / (イ)彼が来るなんて考えれない

全ての年代で、「(ア)彼が来るなんて考えられない」を選択する人の割合が8割を超え、16～19歳を除いては9割を超えている。

過去の調査結果を見ると、これまで大きな変化は見られなかった。



* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要

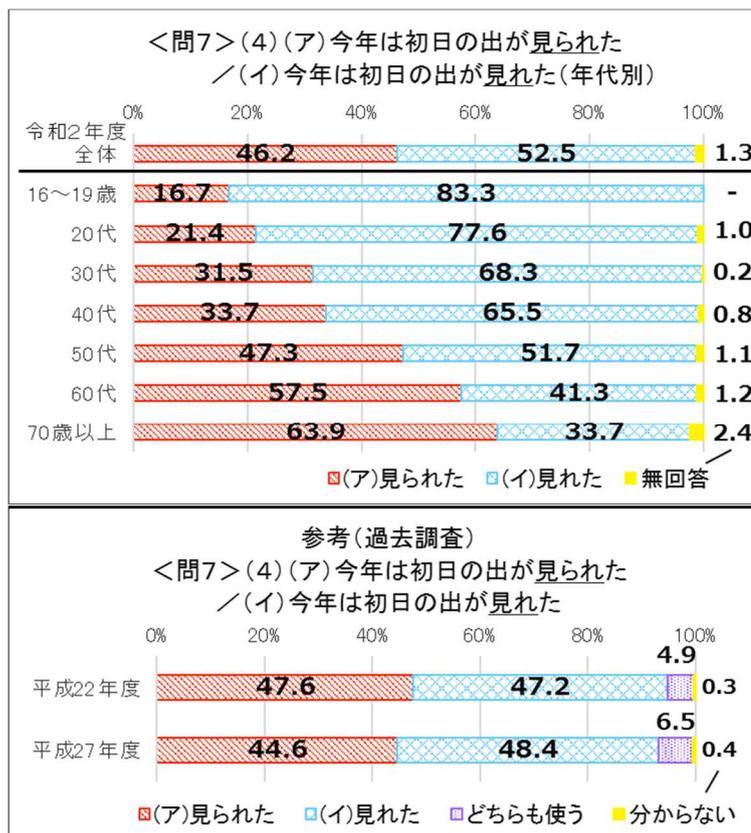


(4) (ア) 今年は初日の出が見られた

／(イ) 今年は初日の出が見れた

年代が上がるに従って、「(ア) 今年は初日の出が見られた」を選択する人の割合が高くなり、70 歳以上では 63.9%となっている。一方、50 代以下では、「(イ) 今年は初日の出が見れた」の割合が半数を超え、16～19 歳では 83.3%と最も高くなっている。

過去の調査結果を見ると、これまで「(ア) 今年は初日の出が見られた」の割合が減少傾向にあった。



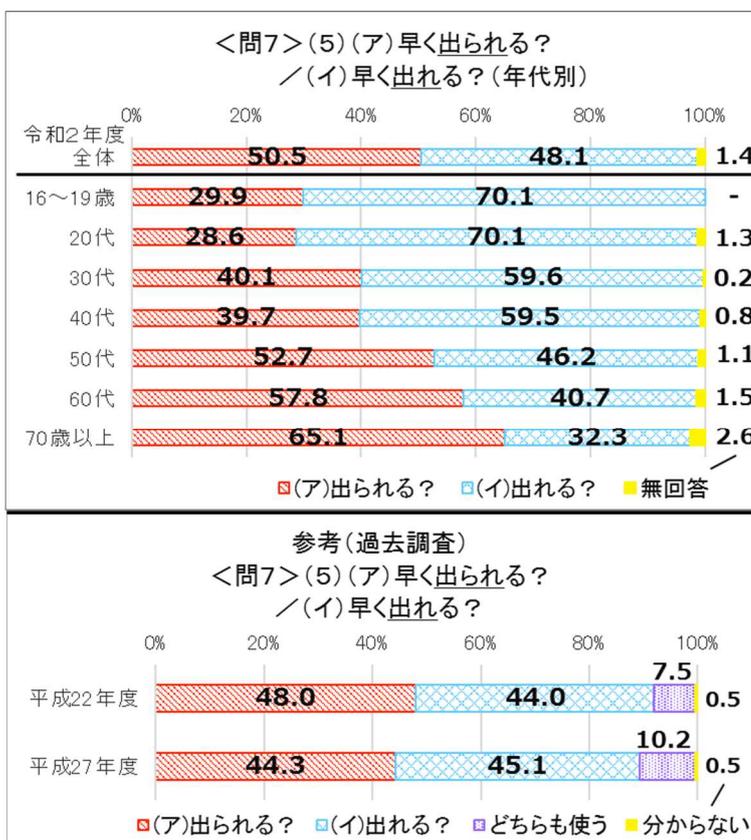
* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要

(5) (ア) 早く出られる？

／(イ) 早く出れる？

50 代以上で「(ア) 早く出られる？」を選択する人の割合が半数を超え、70 歳以上では 65.1%となっている。一方、40 代以下で「(イ) 早く出れる？」が半数を超え、20 代以下で約7割となっている。

過去の調査結果を見ると、これまで「(ア) 早く出られる？」の割合が減少傾向にあった。



* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要

<問8> 気になる言葉(「そっこう」「めっちゃ」等を使うことがあるか) (* p.43)

— 「めっちゃ」は「使うことがある」が5割を超えている —

〔 問 8 : 質 問 〕

あなたは、ここに挙げた(1)～(5)の下線部分の言い方を使うことがありますか。それとも、ありませんか。

(一つずつ回答)

- (1) 「すぐ帰る」ということを、「そっこう帰る」と言う
- (2) 「騒ぐほどではないが確かに痛い」ということを、「じみに痛い」と言う
- (3) 「とてもおいしい」ということを、「めっちゃおいしい」と言う
- (4) 「とてもかわいい」ということを、「鬼かわいい」と言う
- (5) 「そっくり全部わかる」ということを、「まるっとわかる」と言う

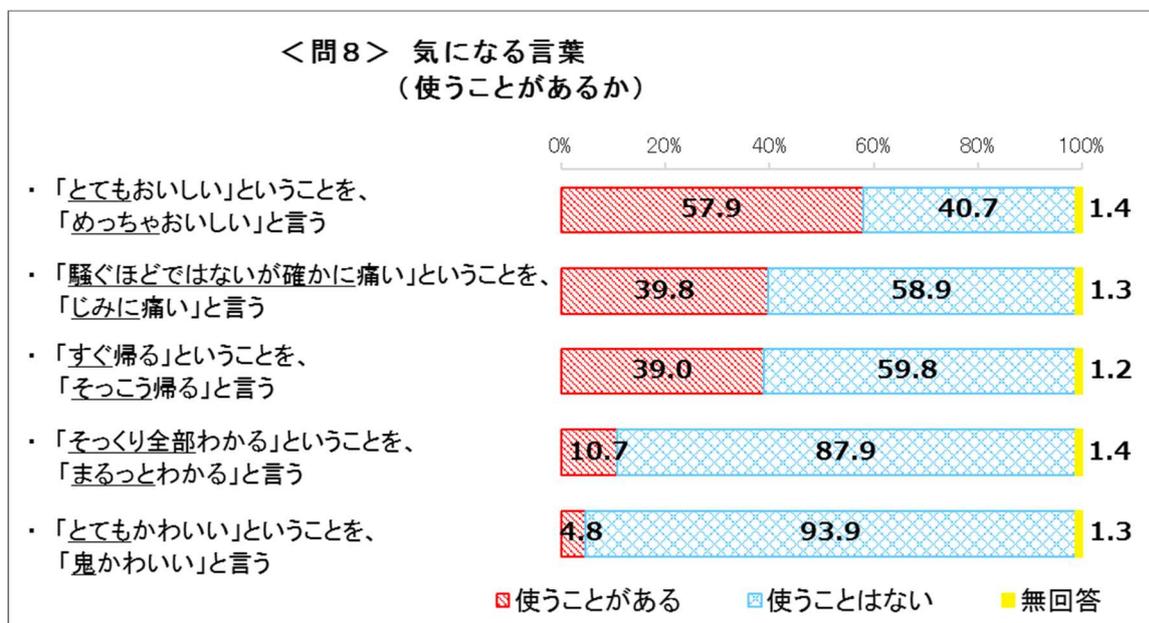
※ 調査した五つの言葉は、副詞的に用いるものの中から、新しい使い方や意味が辞書に記載されはじめたものを取り上げた。

※ 辞書等では、「めっちゃ」は関西地方などで、「まるっと」は日本の各地で、以前から用いられていたとされている。

〔 問 8 : 全 体 の 結 果 〕

結果は次のグラフのとおり。

下線部の言い方を「使うことがある」と回答した人の割合は、「めっちゃおいしい」が 57.9%、「じみに痛い」が 39.8%、「そっこう帰る」39.0%となっている。一方、「使うことはない」と回答した人の割合は、「鬼かわいい」が 93.9%、「まるっとわかる」が 87.9%となっている。



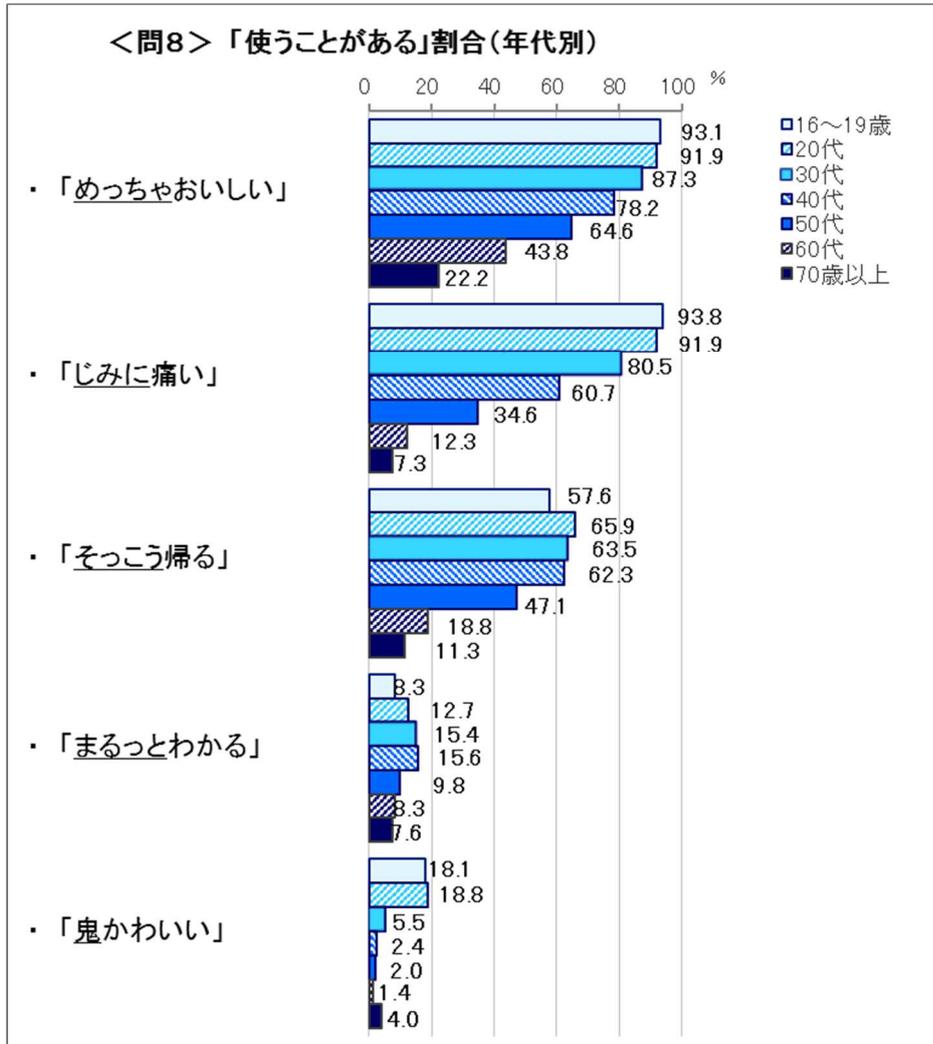
〔 問 8 : 年代別の結果 〕

年代別に「使うことがある」を選択した人の割合を見ると、次のグラフのとおり。

「めっちゃおいしい」、「じみに痛い」については、「使うことがある」の割合は年代が下がるに従って高くなり、30代以下でいずれも8割を超えている。

「めっちゃおいしい」、「じみに痛い」、「そっこう帰る」については、「使うことがある」の割合は、年代による差が大きくなっている。

一方、「まるっとわかる」、「鬼かわいい」については、「使うことがある」の割合は、全ての年代で2割以下と低くなっているが、「鬼かわいい」は、20代以下でほかの年代よりやや高くなっている。



<問9> 気になる言葉(「そっこう」「めっちゃ」等が気になるか) (* p.47)

— 「まるっと」「鬼～」は「気になる」が6～7割台と高い —

〔 問9 : 質問 〕

ここに挙げた(1)～(5)の下線部分の言い方をほかの人が使うのが気になりますか。それとも、気になりませんか。(一つずつ回答)

- (1) 「すぐ帰る」ということを、「そっこう帰る」と言う
- (2) 「騒ぐほどではないが確かに痛い」ということを、「じみに痛い」と言う
- (3) 「とてもおいしい」ということを、「めっちゃおいしい」と言う
- (4) 「とてもかわいい」ということを、「鬼かわいい」と言う
- (5) 「そっくり全部わかる」ということを、「まるっとわかる」と言う

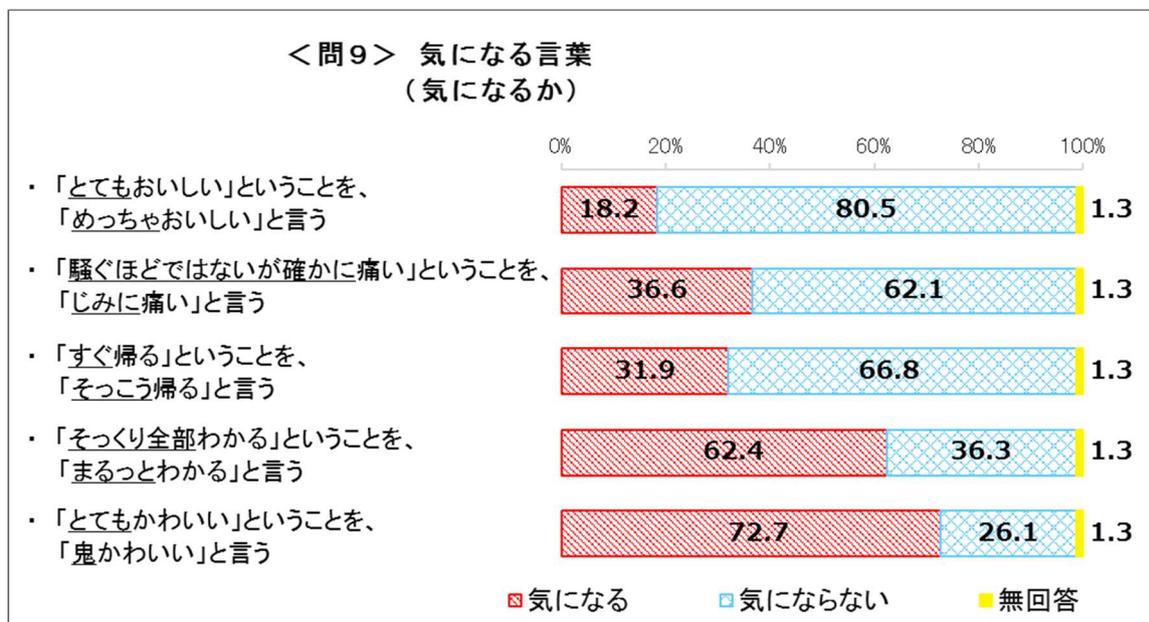
※ 調査した五つの言葉は、副詞的に用いるものの中から、新しい使い方や意味が辞書に記載されはじめたものを取り上げた。

※ 辞書等では、「めっちゃ」は関西地方などで、「まるっと」は日本の各地で、以前から用いられていたとされている。

〔 問9 : 全体の結果 〕

結果は次のグラフのとおり。(言葉の並び順は問8に合わせている。)

下線部の言い方が「気になる」と回答した人の割合は、「鬼かわいい」が 72.7%、「まるっとわかる」が 62.4%となっている。一方、「気にならない」と回答した人の割合は、「めっちゃおいしい」が 80.5%、「そっこう帰る」66.8%、「じみに痛い」が 62.1%となっている。



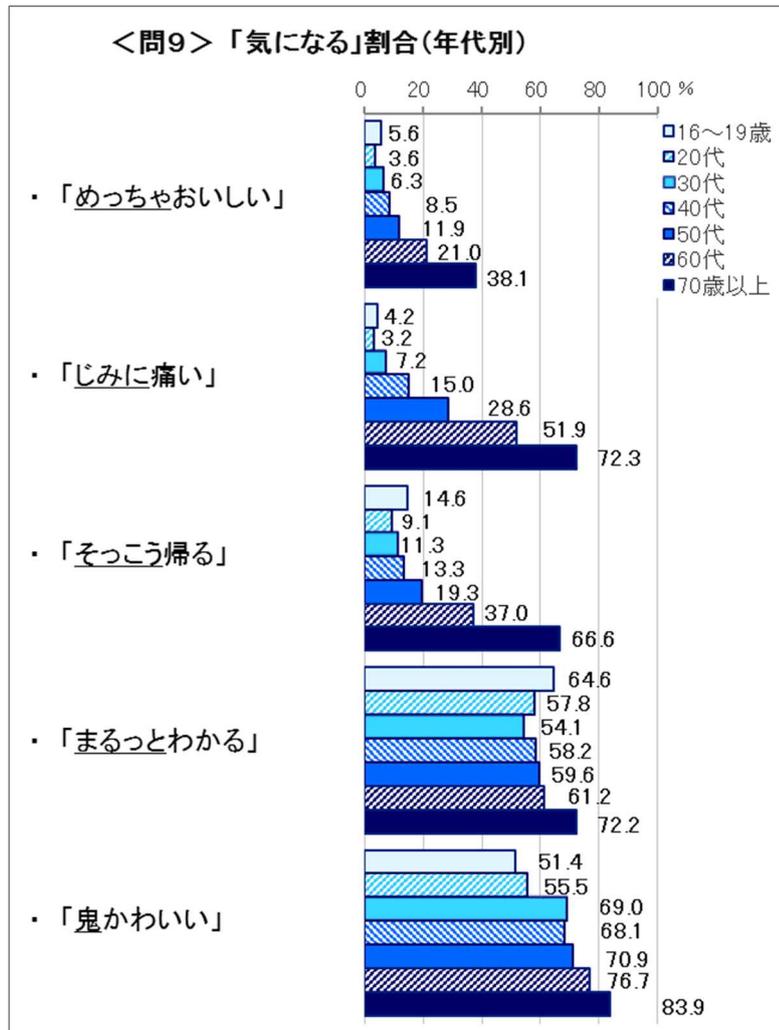
〔 問9：年代別の結果 〕

年代別に「気になる」を選択した人の割合を見ると、次のグラフのとおり。（言葉の並び順は問8に合わせている。）

「めっちゃおいしい」、「じみに痛い」、「そっこう帰る」については、「気になる」の割合は、年代による差が大きく、年代が上がるに従って高くなる傾向が見られる。

「まるっとわかる」、「鬼かわいい」については、「気になる」の割合は、全ての年代で5割を超えている。

「鬼かわいい」については、「気になる」の割合は、年代が上がるに従って高くなる傾向が見られる。



〔 問9：問8「気になるか」との比較 〕

全体の結果において、問8「使うことがあるか」で「使うことがある」の割合が高い言葉ほど、問9「気になるか」で「気になる」の割合が低くなる傾向が見られる。ただし、「じみに」は問8で「使うことがある」の割合が2番目に高くなっているが、問9で「気になる」の割合が3番目に低くなっている。

年齢別の結果においても、同様に問8で「使うことがある」の割合が高い年代ほど、問9で「気になる」の割合が低くなる傾向が見られる。

「めっちゃ」、「じみに」、「そっこう」については、問8で「使うことがある」の割合が高い年代がある一方、問9で「気になる」の割合が高い年代があり、年代による意識の差が大きい。

＜問 10＞「がぜん」「破天荒」等の言葉は、どちらの意味だと思うか（* p.51）

— 「がぜん」「破天荒」は、本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されている —

〔問 10：質問〕

ここに挙げた(1)から(3)の言葉は、それぞれ(ア)と(イ)のどちらだと思いますか。（一つずつ回答）

- (1)がぜん (2)破天荒 (3)すべからく

〔問 10：全体・（参考）過去の調査との比較〕

結果は下の表のとおり。なお、辞書等で主に本来の意味とされてきたものを太字で記した。

今回尋ねた三つの語句のうち、「(1)がぜん」、「(2)破天荒」は、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されるという結果となっている。一方、「(3)すべからく」は、辞書等で本来の意味とされてきたものの方が多く選択されている。

調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要だが、過去の調査結果（平成 20、22 年度）も参考値として表に示す。

＜問 10 どちらの意味だと思うか＞（数字は％）

(1)	「がぜん」	令和 2 年度	
	(ア) 「とても、断然」という意味	67.0	
	(イ) 「急に、突然」という意味	23.6	
	(ア) と (イ) の両方	5.8	
	(ア)、(イ) とは、まったく別の意味	1.7	
	無回答	2.0	
(2)	「破天荒」	令和 2 年度	平成 20 年度 *
	(ア) だれも成し得なかったことをすること	23.3	16.9
	(イ) 豪快で大胆な様子	65.4	64.2
	(ア) と (イ) の両方	6.5	5.4
	(ア)、(イ) とは、まったく別の意味	2.8	1.3
	無回答	1.9	
	分からない		12.2
(3)	「すべからく」	令和 2 年度	平成 22 年度 *
	(ア) 「すべて、皆」という意味	32.1	38.5
	(イ) 「当然、是非とも」という意味	54.8	41.2
	(ア) と (イ) の両方	9.1	5.2
	(ア)、(イ) とは、まったく別の意味	1.8	3.1
	無回答	2.2	
	分からない		11.9

* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要

〔 問 10 : 年代別の結果 〕

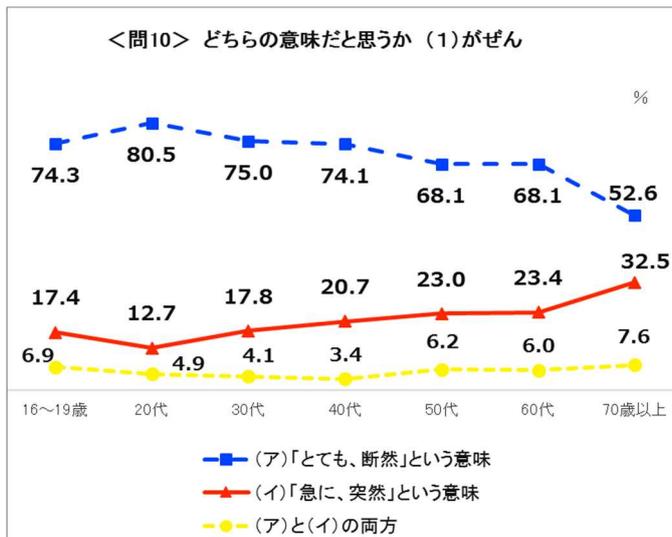
それぞれの慣用語を年代別に見ると、次のグラフのとおり。

※ 辞書等で主に本来の意味とされてきたものを実線（—▲—）で表示した。

（1）がぜん

全ての年代で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(ア)「とても、断然」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(イ)「急に、突然」を上回っている。

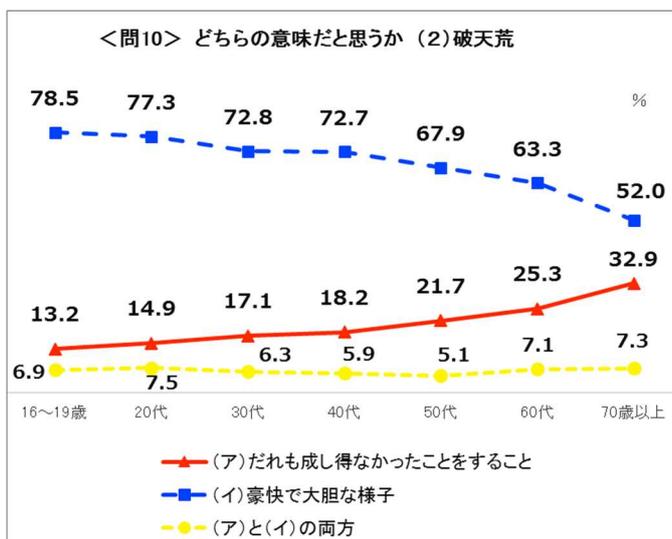
中でも、40代以下では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に 50 ポイント以上の差がある。



（2）破天荒

全ての年代で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「豪快で大胆な様子」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「だれも成し得なかったことをすること」を上回っている。

中でも、40代以下では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に 50 ポイント以上の差がある。

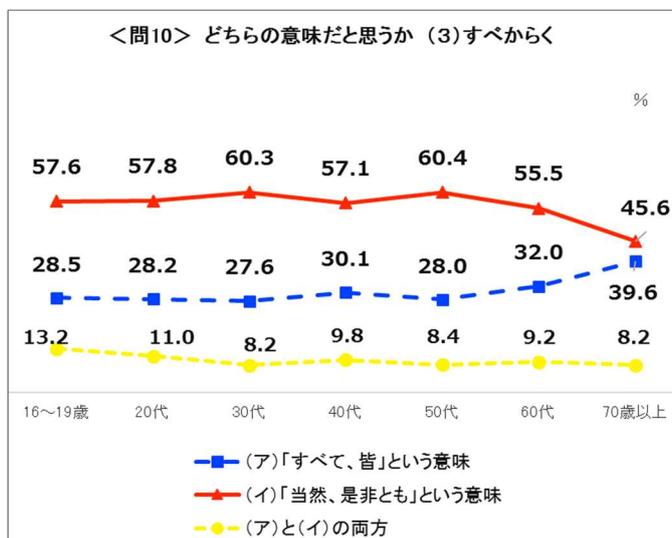


（3）すべからく

全ての年代で、辞書等で本来の意味とされてきた(イ)「当然、是非とも」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきたものとは異なる(ア)「すべて、皆」を上回っている。

中でも、60代以下では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に 20 ポイント以上の差がある。

また、「(ア)と(イ)の両方」を選択した人の割合が、20代以下で10%を超えている。



〈問 11〉「寸暇を惜しまず／寸暇を惜しんで」等の言い方は、どちらを使うか (* p.56)

— 「寸暇を惜しまず／寸暇を惜しんで」は、
本来の言い方とされてきたものとは異なる方が多く選択されている —

〔問 11：質問〕

ここに挙げた(1)から(3)のかぎかつこの内容を表現するとき、それぞれ、(a)、(b)のどちらの言い方を使いますか。 (一つずつ回答)

- (1) 明るみになる／明るみに出る (2) 寸暇を惜しまず／寸暇を惜しんで (3) 一つ返事／二つ返事

〔問 11：全体・(参考)過去の調査との比較〕

結果は下の表のとおり。なお、辞書等で主に本来の言い方とされてきたものを太字で記した。

(2)は、辞書等で本来の言い方とされてきた「(b) 寸暇を惜しんで」を使う割合が、本来の言い方とされてきたものとは異なる「(a)寸暇を惜しまず」を下回っている。一方、(3)は、本来の言い方とされてきた「(b)二つ返事」が、「(a)一つ返事」を上回っている。また、(1)は、本来の言い方とされてきた「(b)明るみに出る」と本来の言い方とされてきたものとは異なる「(a)明るみになる」が、どちらも同じ程度選択されている。

〈問 11 どちらを使うか〉 (数字は%)

(1)	「知られていなかったことが、世間に知られること」を	令和2年度	
	(a) 明るみになる	43.0	
	(b) 明るみに出る	44.1	
	(a) と (b) の両方とも使う	10.5	
	(a) と (b) のどちらも使わない	0.8	
	無回答	1.6	
(2)	「僅かの時間も無駄にしない様子」を	令和2年度	平成22年度*
	(a) 寸暇を惜しまず	43.5	57.2
	(b) 寸暇を惜しんで	38.1	28.1
	(a) と (b) の両方とも使う	3.7	4.3
	(a) と (b) のどちらも使わない	13.1	8.0
	無回答	1.5	
(3)	「早く承諾すること」を	令和2年度	平成23年度*
	(a) 一つ返事	37.4	46.4
	(b) 二つ返事	52.4	42.9
	(a) と (b) の両方とも使う	2.5	2.1
	(a) と (b) のどちらも使わない	6.2	6.5
	無回答	1.5	
	分からない		2.1

* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要

調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要だが、過去の調査結果(平成 22、23 年度)も参考値として前ページの表に示す。

〔 問 11 : 年代別の結果 〕

それぞれの慣用語を年代別に見ると、次のグラフのとおり。

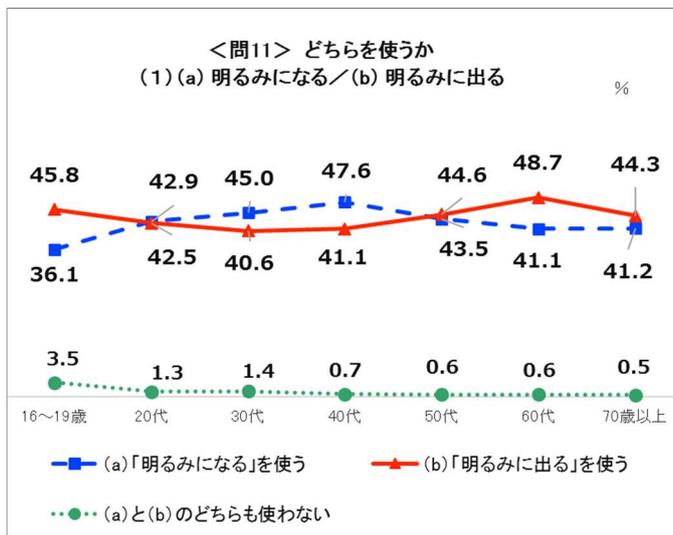
※ 辞書等で主に本来の言い方とされてきたものを実線(▲)で表示した。

(1) (a) 明るみになる ／ (b) 明るみに出る

辞書等で本来の言い方とされてきたものとは異なる(a)「明るみになる」を選択した人の割合と、本来の言い方とされてきた(b)「明るみに出る」の割合の差は、全ての年代で 10 ポイント以下となっている。

16～19 歳と 60 代では、辞書等で本来の言い方とされてきた(b)「明るみに出る」を選択した人の割合が、本来の言い方とされてきたものとは異なる(a)「明るみになる」を上回っている。

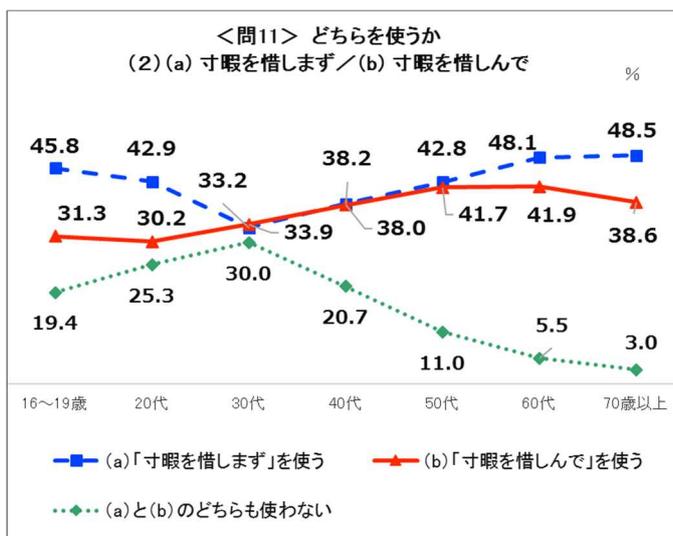
一方、30～40 代では、(a)「明るみになる」を選択した人の割合が(b)「明るみに出る」の割合を上回っている。



(2) (a) 寸暇を惜しまず ／ (b) 寸暇を惜しんで

30 代以外で、辞書等で本来の言い方とされてきたものとは異なる(a)「寸暇を惜しまず」を選択した人の割合が、本来の言い方とされてきた(b)「寸暇を惜しんで」の割合より高くなっている傾向が見られる。なお、30～50 代では(a)と(b)の差が少ない。

また、「(a)と(b)のどちらも使わない」を選択した人の割合が、40 代以下で約2割～3割となっている。

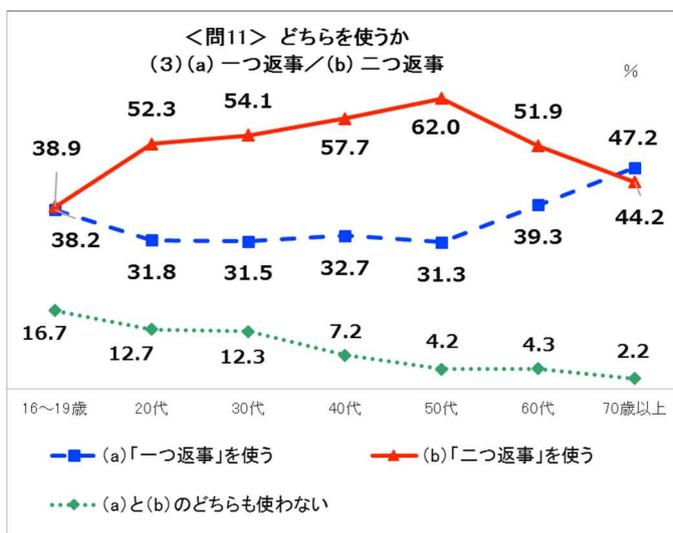


(3) (a) 一つ返事 ／ (b) 二つ返事

20～60 代では、辞書等で本来の言い方とされてきた(b)「二つ返事」を選択した人の割合が、本来の言い方とされてきたものとは異なる(a)「一つ返事」を上回っている。

中でも、20～50 代では、(a)を選択した人の割合と(b)を選択した人との割合に 20 ポイント以上の差がある。

また、「(a)と(b)のどちらも使わない」を選択した人の割合が、30 代以下で 10%を超えている。



V 平成 22 年の常用漢字表改定で追加された漢字の印象

＜問 12＞(平成 22 年の常用漢字表改定で追加された漢字を使った)

「曖昧」「比喩」等の漢字表記について、どのように感じるか (* p.61)

— 「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」は、「痕跡」「勾配」「曖昧」等が高い —

〔問 12：質問〕

【平成 22 年の常用漢字表改定で追加された漢字について】

下線部の漢字表記を見て、どのようにお感じになるか、お尋ねします。 (一つずつ回答)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| (1)責任を <u>曖昧</u> にするのは許されない | (2) <u>畏敬</u> の念を抱く |
| (3) <u>淫ら</u> な行為 | (4) <u>苛酷</u> な労働条件に耐える |
| (5)組織が <u>瓦解</u> する | (6)形骸化した制度を改める |
| (7) <u>顎</u> が外れるほど大笑いする | (8)試合は <u>僅差</u> で勝った |
| (9) <u>勾配</u> が急な坂道 | (10) <u>傲慢</u> な態度が目につく |
| (11)人が住んでいた <u>痕跡</u> がある | (12) <u>刹那</u> の快楽を求める |
| (13)それは極めて <u>恣意的</u> な判断だ | (14)何事にも <u>真挚</u> な態度で取り組む |
| (15) <u>尻馬</u> に乗る | (16)話の要点を <u>捉</u> える |
| (17) <u>謙遜</u> した言い方 | (18)砂が <u>堆積</u> する |
| (19)人の失敗を <u>嘲笑</u> する | (20)資格を <u>剝奪</u> する |
| (21)人格を <u>陶冶</u> する | (22)巧みな <u>比喩</u> を使う |
| (23) <u>肥沃</u> な土地が広がる | (24) <u>辛辣</u> な言葉を浴びせる |
| (25)全身に <u>戦慄</u> が走った | (26)運命に <u>翻弄</u> される |
| (27)人質を取って <u>籠城</u> する | |

〔問 12：全体・(参考)過去の調査との比較〕

(1)～(27)の文を提示して、下線部の漢字表記を見て、どのように感じるかを尋ねた。結果は、次ページの表のとおり。

問 12 で取り上げた 27 の漢字による表記は、平成 21 年度に行った同様の調査の結果に基づいて選定したものである。

平成 21 年度調査では、平成 22 年に「常用漢字表」が改定されるのに先立ち、「常用漢字表」への追加候補漢字に対する国民の意識を調査するため、174 の漢字による表記について、どのように感じるかを今年度調査と同じ選択肢を示して尋ねた。この 174 の表記は、平成 22 年内閣告示「常用漢字表」に追加された 196 字(当時は追加候補漢字)のうち、都道府県名に使われる 11 字を除いた 185 字を 174 の語として示したものである。(平成 21 年度調査では、この 174 の漢字による表記について、調査対象を a、b、c の三つのグループに分け、それぞれに 58 ずつ尋ねた。)

今回の調査は、平成 21 年度調査で「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」と回答した人の割合が 70.0%以下であった 55 の漢字による表記を対象に、国民の意識の推移を調査しようとするものである。令和元年度と今年度の 2 回に分けて調査を行い、2回目となる今年度は、その約半数に当たる 27 の表記について調査した。

今回の調査結果では、27 の漢字による表記について、「漢字を使うことで、意味の把握が容易になる」は、割合が高い順に、「(11)人が住んでいた痕跡がある」(80.9%)、「(9)勾配が急な坂道」(72.2%)、「(1)責任を曖昧にするのは許されない」(71.9%)、「(16)話の要点を捉える」(71.4%)、「(3)淫らな行為」(70.3%)となっている。

一方、「読みにくいので、振り仮名を付けるのが望ましい」は、割合が高い順に、「(5)組織が瓦解する」(59.9%)、「(21)人格を陶冶する」(58.9%)、「(13)それは極めて恣意的な判断だ」(56.0%)となっている。「読みにくいので、仮名書きが望ましい」は、「(13)それは極めて恣意的な判断だ」(14.2%)、「(5)組織が瓦解する」(11.0%)、「(21)人格を陶冶する」「(23)肥沃な土地が広がる」(各 10.8%)となっている。

調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要だが、過去の調査結果(平成 21 年度)も参考値として次の表に示す。

〈 問 12 次の漢字表記について、どのように感じるか 〉(数字は%、下線は追加漢字)

	漢字を使うことで、意味の把握が容易になる			読みにくいので、振り仮名を付けるのが望ましい			読みにくいので、仮名書きが望ましい	
	令和2年度	平成21年度*		令和2年度	平成21年度*		令和2年度	平成21年度*
(11) 痕跡	80.9	69.9	(5) 瓦解	59.9	58.3	(13) 恣意的	14.2	10.6
(9) 勾配	72.2	67.4	(21) 陶冶	58.9	49.2	(5) 瓦解	11.0	8.6
(1) 曖昧	71.9	61.6	(13) 恣意的	56.0	62.7	(23) 肥沃	10.8	5.3
(16) 捉える	71.4	66.8	(2) 畏敬	49.8	57.0	(21) 陶冶	10.8	4.7
(3) 淫ら	70.3	64.7	(23) 肥沃	46.7	47.6	(7) 顎	9.0	7.7
(20) 剝奪	68.9	47.1	(6) 形骸化	43.2	46.2	(2) 畏敬	8.2	6.2
(26) 翻弄	68.8	50.7	(24) 辛辣	39.3	51.4	(6) 形骸化	8.1	6.0
(8) 僅差	67.2	49.7	(15) 尻馬	38.9	28.7	(15) 尻馬	7.9	4.8
(25) 戦慄	67.1	57.9	(12) 刹那	38.4	45.3	(24) 辛辣	7.9	6.9
(7) 顎	66.8	62.5	(19) 嘲笑	33.9	40.1	(19) 嘲笑	6.6	5.3
(4) 苛酷	66.1	68.7	(14) 真摯	32.9	44.5	(12) 刹那	6.5	5.8
(17) 謙遜	64.8	56.3	(10) 傲慢	32.4	46.7	(22) 比喩	6.4	4.8
(18) 堆積	64.8	59.6	(27) 籠城	32.2	42.4	(27) 籠城	6.2	5.3
(22) 比喩	62.9	55.3	(18) 堆積	29.6	36.3	(17) 謙遜	5.3	5.8
(14) 真摯	61.2	48.0	(22) 比喩	29.4	38.5	(10) 傲慢	5.2	5.0
(10) 傲慢	60.9	47.6	(17) 謙遜	28.6	36.9	(3) 淫ら	5.0	5.3
(27) 籠城	60.5	51.6	(25) 戦慄	27.4	36.3	(20) 剝奪	4.7	5.5
(19) 嘲笑	58.2	53.5	(4) 苛酷	27.4	26.9	(14) 真摯	4.6	6.3
(12) 刹那	53.4	47.8	(8) 僅差	26.8	42.2	(8) 僅差	4.5	7.2
(15) 尻馬	51.9	65.6	(26) 翻弄	26.2	43.0	(4) 苛酷	4.5	3.3
(24) 辛辣	51.5	40.5	(20) 剝奪	25.0	46.3	(18) 堆積	4.4	3.2
(6) 形骸化	46.5	46.9	(1) 曖昧	24.3	34.4	(16) 捉える	4.3	2.8
(23) 肥沃	41.1	46.4	(3) 淫ら	23.0	28.7	(25) 戦慄	4.3	4.4
(2) 畏敬	40.6	35.6	(9) 勾配	22.9	28.0	(26) 翻弄	3.9	5.6
(21) 陶冶	28.7	45.1	(16) 捉える	22.9	29.9	(9) 勾配	3.7	3.9
(13) 恣意的	28.3	24.9	(7) 顎	22.7	29.1	(1) 曖昧	2.8	3.1
(5) 瓦解	27.3	31.6	(11) 痕跡	15.9	26.7	(11) 痕跡	1.7	2.8

* 調査方法の変更のため、過去の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要